

取組 3 : 全国相談会

3.0 相談員について

下記の専門家がフォーラム会場および地域に赴き、相談対応、個別指導を行なった。

●福井隆氏（東京農工大学 客員教授）

三重県生まれ。日本の過疎集落の再生を地域の現場で研究・提言をし、多くの実績を挙げてきた地元学の伝道者として知られる。とくに、研究者が研究の成果を地域に残さない傾向に対して、《すべては地域に還元》と信条として全国を歩き回っている。農林水産省「農山漁村活性化人材支援バンク」コーディネーター。全国新・田舎で働き隊全体コーディネーター。

●鈴木宏一郎氏（北海道宝島旅行社 代表取締役）

合同会社北海道観光まちづくりセンター 業務執行社員。1965年北九州生まれ。北海道の体験型観光プログラムの検索予約サイト「北海道体験.com」創業。道内各地で観光まちづくり、インバウンドFIT（個人旅行者）送客を実施。同時に都市観光やレジャーと農村をつなぎ、野菜の収穫体験や農家民宿（ファームイン）などグリーンツーリズムを紹介し、経済面や雇用面など地域にさまざまな波及効果をもたらすことを目指している。観光庁観光地域づくりアドバイザー、北海道グリーンツーリズムネットワーク事務局長、農林水産省6次産業化ボランティアプランナーも務め、北海道の農山漁村の魅力を国内外に伝えている。

●坂元英俊氏（株式会社マインドシェア観光地域づくりプロデューサー）

1954年熊本県生まれ。大学卒業後、農林水産省の外郭団体（財）日本農業土木総合研究所研究員として、全国の農村総合整備計画などの対策にかかわる。その後、（財）阿蘇地域振興デザインセンター事務局長。阿蘇地域1市7町村の広域連携プロジェクトを行政・民間団体などと協働し推進。もてなしの人づくりを核にしたエコ・グリーン・タウンツーリズムによる地域振興と温泉や観光などの既存資源を一体化し、ゆっくり・のんびり過ごすスローな滞在交流型観光の阿蘇づくり「阿蘇カルデラツーリズム」を国、県、市町村、民間企業と協働して展開。平成23年度に阿蘇くじゅう観光園で「阿蘇ゆるっと博」を開催した。地域づくりと観光と公共交通を統合化した滞在交流型の観光戦略と九州の観光振興に寄与した功績で、平成23年10月、観光庁長官表彰を受賞。平成24年10月からは、これまで培ってきた観光地域づくりを全国の観光地域に役立てていきたいとの思いから、阿蘇DCを退任。観光庁が復興支援で展開している東北観光博（阿蘇ゆるっと博がモデル）のアドバイザーや観光圏中核人材育成事業の委員を務めながら、地域づくり型観光の研究と実践を行っている。

●中村功芳氏（倉敷まちなか居住『くるま座』有隣庵 庵主。プロデューサー）

岡山県倉敷市生まれ。倉敷のまちづくり活動『倉敷まちづくりネットワーク』で2004年初代世話人代表をつとめ、『倉敷ナンバー導入』『高梁川沿線のオーガニック農家を集めた三歳市開催』などの活動に関わる。2010年にまちづくりの非営利団体『倉敷まちなか居住くるま座有隣庵』を企画、地域の魅力を世界に発信し、交流する拠点づくりを行う。地域の住民の支持を得、全国的にも貴重な国指定重要伝統建築物保存地区の中の貴重な場所で築100年以上の町屋を預かりゲストハウスや古民家カフェの運営を始める。2010年にまちづくりの非営利団体『倉敷まちなか居住くるま座有隣庵』を企画。わずか2年で40カ国以上（稼働率99%）、年間40,000人が集まる地域発信の拠点へと成長させた。その実績から現在は、

全国の地域や行政から古民家利活用、インバウンド、ゲストハウス運営の依頼が各地域から複数舞い込んでおり、早島町、真庭市、福岡、瀬戸内海島等で新たな事業を展開する。

●養父信夫氏（九州ムラたび応援団団長、「九州のムラ」編集長）

1962 年生まれ。福岡県宗像郡大島村玄海町（現宗像市）で幼少を過ごす。九州大学法学部卒業後、(株)リクルート入社。98 年に独立し「都市と農村をつなぐグリーンツーリズム」を広げる活動を開始。“悠々とした地域生活の総合誌”「九州のムラ」の発行に携わる。現在同誌編集長として地域に生きる人々の暮らしを中心に取材を重ね、ムラとマチを繋げる。また講演や地域づくりのアドバイザーなど、グリーンツーリズムやスローフード運動の啓蒙活動も積極的に行う。総務省の地域力創造アドバイザーとして、鹿児島県霧島市、加計呂麻島、薩摩川内市、長崎県対馬市、山口県山口市に携わる。“ムラガール”の名付親でもある。

●大野博之氏（認定 NPO 法人地球市民の会（T P A）専務理事）

1964 年生まれ。佐賀大学産学・地域連携機構客員教授、障がい者ビジネススクール・ユニカレさが代表。明治大学政治経済学部卒業後専門商社入社、30 歳を機に退職し、ミャンマー・スリランカ・タイへの国際協力や 1000 人以上の韓国との国際交流を行なう「地球市民の会」に参加、2001 年より事務局長。以来、ミャンマープロジェクトマネジャーをはじめ、市民活動ファンド、震災復興支援活動に携わる。2014 年には障がい者の就労支援事業所をソーシャル・アントレプレナーとして経営開始するなど幅広く活動する。

●吉澤寿康氏（ゲスト・ハウス「阿蘇び心」主宰）

1974 年生まれ。広島県福山市出身。専門学校卒、旅行関係の会社を経て、日本一周の旅を行う中で出会った阿蘇へ 2002 年に移住。簡易宿泊のライダーハウスの経営や、地元農家と地元商店が地産地消で新鮮でおいしい逸品を食べて、遊んで、楽しめる『toma っとベリーな街』などの活動や阿蘇市観光協会スタッフとして宿泊者限定の「阿蘇カルデラツアー」、「阿蘇・高千穂・竹田 3 地域連携」に尽力するなど、旅や出会いの魅力を発信してきた。現在、ゲストハウス“阿蘇び心”経営し、外国人旅行者を多く受け入れ、立ち上げから運営のノウハウを現場でサポートし、ゲストハウスのプロデュースも行なうなど活躍の場を広げている。

●浜本奈鼓氏（NPO 法人くすの木自然館代表理事）

1960 年鹿児島県生まれ。1995 年に環境教育事務所くすの木自然館を設立。南九州の自然とそこに生き続ける文化をわかりやすく伝えるため、環境教育、都市づくり、農村景観、国際理解、食農教育に関する実践活動や講演活動を幅広く行っている。何より鹿児島を愛してやまない自然案内人。農林水産省 生物多様性戦略検討会委員。

●アレックス・カー氏（東洋文化研究家）

メリーランド州ベセスダ生まれ。日本では京都の町屋再生事業、コンサルティング事業を手がける株式会社庵（いおり）を 2003 年に創業し講演、執筆、コンサルティング事業も手がける。外国人観光客の

誘致や各地域での古民家再生、コンサルティング活動等がきっかけとなり、2008年2月より長崎県北松浦郡小値賀町の「観光まちづくり大使」などに任命され、各地でインバウンド観光の促進活動を行う。

●井澤一清氏（NPO 法人簾庵トラスト 副代表）

アレックス氏の原点でもある徳島県祖谷にある簾庵（ちいおり）を拠点として、2005年に設立された特定非営利活動法人簾庵トラストの副代表。アレックス・カー氏のビジネスパートナーとして、簾庵での宿泊・見学を通じて国内外から多くのゲストを受け入れ、祖谷の生活体験を提供する活動を支える。2009年からは地元の三好市と共に落合集落でのプロジェクトにカー氏とともに携わり、現在は4件の茅葺き民家を改修して、古民家ステイとして運営している。

●高砂樹史氏（株小値賀観光まちづくり公社 代表取締役）

1965年大阪生まれ。立命館大学出身。10年間の「わらび座」での劇団生活を経て、自給生活を目指し就農。2005年に小値賀町へ移住。島でも田畑を耕しながら半自給生活を目指している。移住当初は、「ながさき・島の自然学校」職員、平成19年より3組織（民泊団体、自然学校、観光協会）が合併した「NPO 法人おぢかアイランドツーリズム協会」の設立に参加。アメリカ高校生の国際交流事業など小値賀町の「島ぐるみによる観光まちづくり」の取組が、平成20年度には「JTB交流文化賞最優秀賞」「オーライニッポン内閣総理大臣賞」などを受賞。また、平成22年度より着地型旅行会社（株小値賀観光まちづくり公社）も立ち上げ、東洋文化研究家のアレックス・カー氏との連携で、江戸末期の古民家などを再生したレストランや宿泊施設を活用する「新しい島旅」事業も平成22年9月にスタート。翌年平成23年度には、この古民家再生事業が「毎日新聞社グリーンツーリズム大賞」を受賞。こうした島ぐるみの観光まちづくりの取組が平成24年度「地域づくり総務大臣賞 大賞」を受賞。

●山岸宏氏（北海道グリーン・ツーリズムネットワーク会長／レストラン&コテージ カントリーパパ オーナー）

鹿追町出身。畑作農家で育つ。「一人でも多くの人に農業そのものを理解してもらいたい」と1994年に農家レストランカントリーパパを開店。1998年にコテージを開始。農村景観のあり方や人的な交流に目を向ける。

●梅崎靖志（当事業プロジェクトマネージャー／日本エコツーリズムセンター共同代表理事／風と土の自然学校 主宰）

埼玉県生まれ。環境省田貫湖ふれあい自然塾（静岡県富士宮市）を始め、各地の環境教育拠点施設において、体験プログラム開発、人材育成、滞在交流型観光のための仕組みづくりおよび運営業務を担当。このほか、西伊豆地域のエコツーリズム導入のための調査事業や、エコツーリズム関連の人材育成事業を多数担当。現在、山梨県都留市の農村集落にある古民家を拠点に「風と土の自然学校」を運営。パーマカルチャーや自然農の考え方を基本とした、循環型のライフスタイルをテーマにした講座には、首都圏からの参加者も多く、様々な体験を通じて都市と農村の交流に取り組んでいる。

●森 高一氏（日本エコツアーリズムセンター 共同代表理事／株式会社森企画代表取締役／環境コミュニケーションプランナー）

1967年東京生まれ。1990年から環境教育、環境コミュニケーションの企画・プロデュースを仕事に。1992年、日本環境教育フォーラムでエコツアーリズム研究会をスタート、以降日本エコツアーリズム協会の設立、日本エコツアーリズムセンター（エコセン）の設立に関わる。現在エコセン共同代表のほか、大妻女子大と大正大で非常勤講師、ESD-J（「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議）でも理事を務める。

3.1 東京会場					
相談 1					
相談内容	事業化（個人）				
日時	平成 26 年 7 月 16 日／開始： 16 時 00 分 - 終了 17 時 00 分				
会場	国立オリンピック記念青少年総合センターセンター棟（東京都渋谷区代々木）				
相談者	地域	愛媛県市町村			
	団体・所属	地域おこし協力隊員			
具体的な相談と回答	相談： 任期切れ後は、協議会事務局として地域に残るが、一方で農家民泊や体験なども自身で行なうプレーヤーとしても兼任して活動したいと考えていた。それが地域にとっていいことなのかを悩み始めている。				
	回答者（鈴木宏一郎氏、坂元英俊氏） 回答： 報酬が保障されてない中で、収入が確保できるかどうか問題です。 収入の確保と時間をどれくらい割くかを冷静に考えつつ、絶対に兼任してやるべき。あなたのような若者が地域で成功モデルとなれば、後が続いていく。既にいる農家にお客さんを連れて行って、修学旅行やインバウンドなどの体験のコーディネートする人を目指して、プレーヤーとして確立していけば、カッコいい。地域には自分の利益のためにやっていると思われて悪口を言う人もいるかもしれないが割り切ってやるべし。				
その他					
報告者	井上	報告日時	26 年/7/25	報告No.	東京 1

3.1 東京会場					
相談 2					
相談内容	法令順守				
日時	平成 26 年 7 月 16 日 / 開始: 16 時 00 分 - 終了 17 時 00 分				
会場	国立オリンピック記念青少年総合センターセンター棟 (東京都渋谷区代々木)				
相談者	地域	群馬県			
	団体・所属	教育旅行団体			
具体的な相談と回答	<p>相談: 観光協会から独立させて作った一般社団で学校団体の受入を主にやっている。首都圏の中学生を農家民泊に受け入れて、年間 5000 泊。相談は、群馬県の場合、法令順守や資格についてのガイドラインがない。団体の取組が目立ち始めて保健所から注意を受けている。国の推進の動きは、県には伝わらず、条例制定に後ろ向き。どうすべきか。</p>				
	<p>回答者 (鈴木宏一郎氏、都市農村交流課・志田氏)</p> <p>回答:</p> <p>(鈴木宏一郎氏) 簡易宿泊の資格 (年間 2 万円) をとるべき。資格をとらなくてもマルと言っているが、何か事故が起きた時にこれまでの実績も全部吹っ飛ぶ、さらには大手旅行会社は取得している業者・団体でないと発注しないと言っているところもある。さらには、CONE の指導者資格、保険にも加入すべき。もうひとつは、町で 5000 人の受入は異常な多さなので、今後はすべて自分で受け入れるだけでなく、窓口・事務局として他の受入先に仕事を振って、マージンを稼げば感謝もされる。その点は積極的に前へ出るべき。</p> <p>(都市農村交流課・志田氏) 現在、教育旅行は文部科学省も積極的になり、受入側 (農家民泊) を伸ばしていく側としては、業法の取得、保険の加入、研修会を受ける、ということをやっていただきたい。地方分権の中、国が県に強制するような世の中では、子ども受入に関しては農政局に協議会を設けたりなど、少しずつ気運を高めつつ、ご意見を真摯に受け止めてまいりたいと思います。みんなやらないからいいじゃないか、ではなくて、地域でちゃんとやっていく、ということが必要になっていきます。</p>				
その他					
報告者	井上	報告日時	26 年/7/25	報告No.	東京 2

3.1 東京会場					
相談 3					
相談内容	地域内外との連携				
日時	平成 26 年 7 月 16 日 / 開始: 16 時 00 分 - 終了 17 時 00 分				
会場	国立オリンピック記念青少年総合センターセンター棟 (東京都渋谷区代々木)				
相談者	地域	茨城県			
	団体・所属	体験交流 NPO			
具体的な相談と回答	<p>相談: 10 周年となって、インバウンドはまだまだこれからですが、国際交流を少しやっている。今日のお話の中で、宿泊、長期滞在は大事だなと。現在、海の体験活動をしているが、将来、森の体験も作り連携していきたい。地域住民との巻き込み方。行政との関わり方についてご相談したい。</p>				
	<p>回答者 (鈴木宏一郎氏)</p> <p>回答:</p> <p>地域住民の巻き込み方については、問題解決に取り組んで巻き込んでいくことが一つ。もう一つは、学びの場であるので、地域の特異性をうまく活かして、先生になってもらい、関わってもらう。行政に対しては、事業 (予算) を持ってくる窓口・企画提案・申請代行をしますから、と協力関係を結ぶ。</p> <p>LCC で茨城空港にたくさん来るインバウンド観光客を、素通りさせないで、地元周辺にも波及効果が得られるような仕組みを作りましょう、と行政に提案する。内容は、森の整備費用にも回るような事業計画を作ることが一番先です。広域になるので、相手は県のほうがいいかもしれない。</p>				
その他					
報告者	井上	報告日時	26 年/7/25	報告No.	東京 3

3.1 東京会場					
相談 4					
相談内容		地域でのコーディネート			
日時	平成 26 年 7 月 16 日 / 開始： 16 時 00 分 - 終了 17 時 00 分				
会場	国立オリンピック記念青少年総合センターセンター棟（東京都渋谷区代々木）				
相談者	地域	宮城県			
	団体・所属	地域おこし協力隊員			
具体的な相談と回答	<p>相談：体験型旅行を試行的にやっているが、みなさんが強調されている「何のためにやるのか」が地域では見えないし、共有されていない中で、自分はどこを目指すべきか。たとえば組織がない中で、組織をつくるべきなのか。自分としては体験旅行をやっていきたいというものもあるが、将来設計を考えると、はまってやれるか、両立できるか不安。</p>				
	<p>回答者（鈴木氏、福井氏、坂元氏）</p> <p>回答 1) 地域に派遣されているながら、所属は市役所であるので、そのことは前提として、認識しておく。自分自身が、コーディネーターとプレーヤー半々でやりたいとしても、なかなか旅行業は食えない世界です。また、担当地域だけで受入をしてもキャパシティとしてはコーディネーター1人分の給与にはならない。</p> <p>回答 2) 当地は被災地へのハブになる地域だから、広域で見て、たとえば被災地のスタディツアーのようなことの事業計画を書く。それを見越して今から、協力隊のうちに準備をしていく。</p> <p>回答 3) ルーチンの仕事がないのであれば、協力隊の任期の残り時間、どのように地域の住民とやっていくのかの計画を見せて、主張していく。そうしていけば、辞める半年前には観光協会から声がかかるかもしれない。</p> <p>回答 4) 予算をとって、坂元氏を地域に講演で呼ぶ。釜石や大洗など先進的な取組を視察に行く。その話を、さぼじん（地域おこし協力隊事務局）や市役所に相談する。</p>				
報告者	井上	報告日時	26 年/7/25	報告No.	東京 4

3.2 北海道上富良野町					
相談 1					
相談内容	インバウンド体制づくり				
日時	平成 26 年 9 月 30 日 / 開始: 16 時 00 分 - 終了 17 時 00 分				
会場	多田農園				
相談者	地域	北海道			
	団体・所属	ファームイン経営			
具体的な相談と回答	相談: 今回、モニターツアーで外国人を受け入れて、ファームインや食事、畑での体験など、好評なことが分かった。だが、農場では、外国人の問い合わせに対応する体制が整っていない。今は暫定的に受入とともに窓口をやっているが、これ以上は難しい。一人ふたりなら対応可能だが、たくさんの旅行客が来ると対応ができない・・・。				
	<p>回答者 (北海道宝島トラベル・大和寛氏、ねおす・荒井氏)</p> <p>回答:</p> <p>① 上富良野町には他にも外国人受入可能なファームインや農場はある。そろそろ地域として受け入れる時期に来ているのでは。予算をつけて、外国人対応窓口業務を行う人材の椅子を据えるべきでは。</p> <p>② 地域に人材がいないのであれば、地域おこし協力隊を活用してはどうか。任期は期限付きだが、外国語能力のある若い人材が 3 年間でも外国人対応してくれることで、その間に体制整備推進の後押しにもなる。</p>				
その他					
報告者	荒井	報告日時	26 年/10/31	報告No.	上富良野 1

3.2 北海道上富良野町					
相談 2					
相談内容	人材育成				
日時	平成 26 年 9 月 30 日 / 開始: 16 時 00 分 - 終了 17 時 00 分				
会場	多田農園				
相談者	地域	北海道			
	団体・所属	観光課			
具体的な相談と回答	<p>相談：上富良野町の特徴的な農業を紹介できる資源はある。しかし、それを観光に結び付けられ切れてないのが課題。どうやったら、ファームステイなどをさせて農業を見せられるのか。うまくいけば農産物の定期購買に結び付けられ、農業に貢献できる観光事業ができるはず。</p> <p>もしその人材に協力隊がいるのなら、制度にあまり詳しくないので聞きたい。行政（観光課）で人材育成できるかが不安。観光協会に研修先として派遣して、活用すべき人材だと考えているのだが、それは可能なのか。</p>				
	<p>回答者（北海道宝島トラベル・大和寛氏、ねおす・荒井氏）</p> <p>回答：</p> <p>地域おこし協力隊を役場から観光協会に派遣することは可能だ。</p> <p>農業と観光とインバウンドを行うにあたって、必要なのは2つのコーディネーター。まずは（外国人）旅行者対応をする窓口コーディネーターがひとつ。もう一つは地域側・農家側を取りまとめるコーディネーター。先程の受入農家の話では、農家がコーディネーターをやるのは難しい現状がある。</p> <p>地域がハラを決めて、その役職の人を予算をつけて、雇うかどうか。</p> <p>町として方針を決める。言えるようにしていくことが今後の課題・テーマと言える。受入農家もそれを望んでいる。</p>				
その他					
報告者	荒井	報告日時	26 年/10/31	報告No.	上富良野 2

3.3 岡山会場					
相談 1					
相談内容	ゲストハウス起業／外国人受入新規				
日時	平成 26 年 10 月 7 日／開始： 16 時 00 分 - 終了 17 時 00 分				
会場	ゲストハウス有鄰庵（岡山県倉敷市）				
相談者	地域	岡山県高梁市成羽町			
	団体・所属	オーガニック食堂			
具体的な相談と回答	相談：来年中にゲストハウスを開業したい。カフェとゲストハウスを並行してやりたい。経営は家族でスタートの予定。オリンピックに向けて外国人観光客を増やしていきたい。				
	<p>回答者（中村氏、福井氏、鈴木宏一郎氏）</p> <p>回答：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（研修ワークショップで出した）コンセプトをもっと短くシンプルにするとよい。 ・カフェで経済的基盤をつくると良い。 ・オーガニックというコンセプトを追求したらよい。 ・量と質、どちらを重視するかがポイント。 ・ストーリーの掘り下げが大切。なぜその地であるのか、なぜオーガニックなのか ・グーグルの検索でヒットしたいキーワードはなにか。 ・経営的努力をすれば絶対に黒字になる。 ・ゲストハウスは単価 3000 円で 1 日平均 6 人入れれば 1 人分の給料が出る ・質の追求が重要。奇跡のリンゴの木村さんお墨付き etc. ・デザイナーズホテルの感覚でゲストハウスを立ち上げ、運営する。 				
その他					
報告者	瀧野	報告日時	26 年/11/7	報告No.	岡山 1

3.3 岡山会場					
相談 2					
相談内容	起業／古民家活用				
日時	平成 26 年 10 月 7 日／開始： 16 時 00 分 - 終了 17 時 00 分				
会場	ゲストハウス有鄰庵（岡山県倉敷市）				
相談者	地域	兵庫県			
	団体・所属	無所属個人（宿泊施設勤務）			
具体的な相談と回答	相談：篠山の城下町や田園風景に惚れて古民家を篠山に購入した。古民家は 15 年間無住。改装費は 1 千万はかかることが予想される。現在は宿泊施設のフロント業務をしている。貯金なし。 日帰りのリトリート施設を夫婦 2 人でしたいと思っている。				
	回答者（中村氏、福井氏、鈴木宏一郎氏） 回答： <ul style="list-style-type: none"> ・採算が合う事業計画書を最初に作った方が良い。 ・収入源がないとソーシャルマラソン（SNS と連動してマラソン中継する仕組み）の企画は難しい。 ・現状では採算が合わない。 ・月 6 万円で他の人に貸して 10 年後から本格的にスタートする（改装を任せたら月 3 万円）。 ・今の仕事は辞めず、趣味の場所で別荘を購入したと考える。コツコツ修理しながら、その間に事業計画を作成する。 ・日帰りプランは難しいと思われる。 				
その他					
報告者	瀧野	報告日時	26 年/11/7	報告No.	岡山 2

3.3 岡山会場					
相談 3					
相談内容	古民家活用				
日時	平成 26 年 10 月 7 日 / 開始: 16 時 00 分 - 終了 17 時 00 分				
会場	ゲストハウス有鄰庵 (岡山県倉敷市)				
相談者	地域	愛媛県			
	団体・所属	GT 推進協議会			
具体的な相談と回答	<p>相談：古民家をどのように有効活用するか。敷地 1500 坪の古民家を島に購入。現在古民家改装中。半分は手つかず状態。</p> <p>お遍路でお世話になったから今度はお世話する側になりたいとの想いで購入。現在収入源なし。</p> <p>また、G T が県主体から民間主体になってきた。そんな中、自分ひとりで事業をするように言われて困っている。</p>				
	<p>回答者（中村氏、福井氏、鈴木宏一郎氏）</p> <p>回答：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 想いが 10 年続くかどうか重要。 ・ 利用客にフィルターをかける。ベッドで眠りたい人は他の宿へ行ってもらう。 ・ 20 人以上収容人数ないとゲストハウスでは採算がとれない。 ・ 収容人数は？必要収入は？そこを設定してから事業計画をつくる。 ・ 小豆島の「まりの宿」 小値賀島のアレックスカーの「古民家」宿を参考にするとよい ・ 民営化については、どうしてそのようになったのか背景を行政に確認してみましょう。 				
その他					
報告者	瀧野	報告日時	26 年/11/7	報告No.	岡山 3

3.4 熊本会場					
相談 1					
相談内容	インバウンド集客／地域資源活用				
日時	平成 26 年 10 月 9 日／開始： 16 時 00 分 - 終了 17 時 00 分				
会場	国立阿蘇青少年交流の家本館（熊本県阿蘇市一の宮町）				
相談者	地域	宮崎県			
	団体・所属	農業体験推進協議会			
具体的な相談と回答	<p>相談：団体客のインバウンド誘致について。以前、USA の団体客を実施したが、東日本大震災でキャンセルになって以来、それから海外からの客がゼロに。現状どのように団体客は訪日しているのか。具体的に。</p> <p>もうひとつ、地域の資源である「陰陽石」を活かして何かできないか。</p>				
	<p>回答者（大野氏）</p> <p>回答：</p> <p>回答 1) 観光材料に姉妹都市を作りましょうと町長に提案し、その都市の人を誘致する。思い切って、ヨーロッパのどこかの都市に姉妹都市など。</p> <p>回答 2) 海外でも巨石ファンや聖地好きはいる。また、広島・宮島はフランス人観光客が多いが、それはモンサン=ミッシェルの都市と姉妹都市を締結しているので、向こうのガイドブックにはまず日本というと、宮島が出てくる。なので、世界の中で「代替の陰陽石」のような巨石文明の都市との交流を始める。都市同士のレベルの違いは気にしない。さらに、石であれば、伝説や伝承、宗教さらに環境とも結びつけて、文献や地誌を発掘して、ストーリーを作ってから依頼するなど。</p>				
その他					
報告者	山口	報告日時	26 年/11/27	報告No.	熊本 1

3.3 熊本会場					
相談 2					
相談内容	地域の気運の醸成				
日時	平成 26 年 10 月 9 日 / 開始: 16 時 00 分 - 終了 17 時 00 分				
会場	国立阿蘇青少年交流の家本館 (熊本県阿蘇市一の宮町)				
相談者	地域	九州内自治体			
	団体・所属	市役所 GT 支援担当官			
具体的な相談と回答	<p>相談: 地域振興の兼ね合いでグリーンツーリズムの支援を行政の立場でやっている。地域には民泊実施者もあり、外国人の受入もやっている。しかし、旗振り役がない。しがらみがあったり市がレベル的に中途半端で盛り上がりにかける。今後、どう抜け出すか。地域を刺激して同方向にむかせる指南とか、持っていく方についてアドバイスやご指摘いただきたい。年間 2800 人受け入れてその半分が外国人である。</p>				
	<p>回答者 (浜本氏、養父氏、大野氏)</p> <p>回答:</p> <p>(浜本氏) 市の取組は進んでいるので、現状“点”(グリーンツーリズムの観光資源)が見えているはず。その点をつなぐために、行政として旗を振ってください。ただし、担当を離れても 5 年 10 年振り続ける覚悟を持ってください。自分の地区を行政が褒めると民間は嬉しい。それで外国人集客が増えると、国内の誘致にもつながります。あとは“点”の実践者たちに、“点”から“面”の事例を教えることで、「自分たちもできそう」「みんなで視察に行ってみよう」という動きにつながっていけばよいと思います。</p> <p>(養父氏) 地域おこし協力隊での事例でいうと、まず農水や観光等、各部局の行政マンに集まってもらい、作戦会議を 2 時間行なう。そうして足りない機能が分かたら協力隊が動くようにする。これまでの行政の平等主義は捨てて、「がんばっているところに注力・応援する」と腹を決める。地元の人でキーマンになる人を見つけて、事例のあるところに研修に行ける予算を組むなど、戦略的に。</p> <p>(大野氏) (相談者に質問) 1400 人に御礼の手紙は送っているのか (相談者「送っているかもしれないが分からない」)。</p> <p>(回答) 地球市民の会では寄付者に 7 回御礼をする。タイミングは季節の変わり目。そのためにも 1400 人をリスト化する。もうひとつは農家民宿がどれくらい儲かっているのかということを見える化・公開する。妬みにつながるということではなく「儲かるシステム、仕組み」を標準化・公開する。実際に儲かっているモデルを構築して、それで広げていくという方が有効。</p>				
その他					
報告者	山口	報告日時	26 年/11/27	報告No.	熊本 2

3.5. 四万十市、四万十町					
相談 1					
相談内容	ツアープログラム企画				
日時	平成 26 年 7 月 29 日-30 日				
会場	四万十川財団（高知県高岡郡四万十町琴平町）				
相談者	地域	高知県四万十市、四万十町			
	団体・所属	四万十川財団			
具体的な相談と回答	<p>相談：モニターツアーのプログラムとして、どのようなものが適切か。外国人を案内したいものとして、「四万十すみずみツーリズム」の中から農体験、農家民宿、農家レストランなどを挙げたい。このほかに、四万十川の体験として川エビ漁とカヌー体験をいれたいし、最近取り組んでいるサイクリングツアーなども試してみたい。2 日間で実施できるか。</p>				
	<p>回答者（森高一）</p> <p>回答：実際のツアーでは、アクティビティを詰め込みすぎないのが重要。旅行者のフリー時間も効果的に設けられるのがよい。今回のモニターツアーでは、地域で試したい内容をぜひ盛り込んでいただきたいが、内容的に 1 泊 2 日で収めるのが難しいと感じる。2 泊 3 日のツアープログラムで検討したらどうか。特に、自転車で四万十流域をまわるプログラムは、四万十の川と里を体感するのに最適だと思う。カヌー体験では川からの視点、自転車からだと陸からの視点を得られて、組み合わせることで相乗効果が期待できる。</p>				
その他					
報告者	森高一	報告日時	26 年/10/31	報告No.	四万十 1

3.5. 四万十市、四万十町					
相談 2					
相談内容	集客・アクセス				
日時	平成 26 年 7 月 29 日-30 日				
会場	四万十川財団（高知県高岡郡四万十町琴平町）				
相談者	地域	高知県四万十市、四万十町			
	団体・所属	四万十川財団			
具体的な相談と回答	相談：移動について、山間部ではマイクロバスでも入りづらいところがある。高知空港や駅からアクセスするにしても、四万十町・四万十市まではけっこう遠く、バスでの移動が想定できるが、どんな移動がよいか。				
	回答者（森高一） 回答：グリーンツーリズムの実践地の多くは、公共交通機関が少なく、空港や主要駅からのアクセスが大きな課題になっている。フリーの旅行者はレンタカーで移動するケースが出ており、小グループであれば大型のワンボックスカーを見かける。今回のモニターツアーでは、県や行政のバスなどお借りすることが検討できればありがたいが、中型バスをチャーターして実施するのでどうか。この場合、旅行業法と道路運送法上のクリアをしなくてはならず、できれば地元の第 3 種の登録をした事業者により旅行主催となる必要がある。県などからご紹介いただいて、協力を得たい。				
その他					
報告者	森高一	報告日時	26 年/10/31	報告No.	四万十 2

3.5. 四万十市、四万十町				
相談 3				
相談内容		資源・コンテンツの有効活用		
日時	平成 26 年 7 月 29 日-30 日			
会場	四万十川財団（高知県高岡郡四万十町琴平町）			
相談者	地域	高知県四万十市、四万十町		
	団体・所属	四万十川財団		
具体的な相談と回答	相談：いい意味でも悪い意味でも、「清流四万十川」のブランド化ができてい るので、それ以外の地域の魅力が打ち出しづらいところがある。グリーンツーリズム という作物のおいしさや、地酒もあるし、古い民家など、コンテンツはたくさん あるので、それらをうまく活用できないか考えたい。			
	回答者（森高一） 回答：今回のモニターツアーでは、いただいたツアープランを拝見して、地域の 拠点ひとつひとつで打ち出すよりも、面的な広がりとして魅力を作れたらいいの ではと思った。それをつなぐコンセプトが重要で、こちらから提案すると、四万 十の水がつなぐもので農や暮らしを体験いただくのがよいのではないかと。四万十 の水の恵みで、米しかり酒しかり、地のおいしい作物が育ち、鮎や鰻の川魚が味 わえる。それを暮らしに活かしてきた文化がここにはあるので、そのものを旅行 者に伝わるように組めたらいいと思う。なるべく地域の方との直接的な交流を前 面にし、特別でなく普段の生活を体験いただくものにできればと良いと思う。			
その他				
報告者	森高一	報告日時	26 年/10/31	報告No. 四万十 3

3.6 長崎会場					
相談 1					
相談内容	古民家活用				
日時	平成 26 年 11 月 19 日 / 開始 : 10 時 30 分 - 終了 11 時 00 分				
会場	レストラン「藤松」(長崎県小値賀町)				
相談者	地域	沖縄県離島			
	団体・所属	離島観光協会			
具体的な相談と回答	相談 : 古民家の改修を久米島でも進めたいが、建築や備品類を紹介していただくことはできるのか?				
	<p>回答者 (アレックス・カー)</p> <p>回答 : 以下の通り回答した。</p> <p>① インテリアや備品リストなどの必要なものはすべて提供している。感性の問題と、お客さんのニーズが重要。</p> <p>② 家を直す場合、必ず地元の設計士やゼネコンを使う。技術面では素晴らしいものを持っているが、素材の勉強や現代的な感性の勉強ができていないことがある。床材、照明、イス、蛇口 1 つなども見せて教えると、彼らもイメージができる。そうしないと普通の面白くないものができてしまうので、注意が必要。</p>				
その他					
報告者	梅崎	報告日時	26 年/12/26	報告No.	長崎 1

3.6 長崎会場					
相談 2					
相談内容	言葉の問題				
日時	平成 26 年 11 月 19 日 / 開始 : 10 時 30 分 - 終了 11 時 00 分				
会場	レストラン「藤松」(長崎県小値賀町)				
相談者	地域	宮崎県			
	団体・所属	地域おこし団体			
具体的な相談と回答	相談 : 通訳案内士の資格がハードルになるが、どのようにクリアすればよいか?				
	<p>回答者 (梅崎靖志)</p> <p>回答 : 以下の通り回答した。</p> <p>①外国語を使って日本のことを紹介する場合は、資格が必要になる。</p> <p>日本語で話された内容を外国語のできる人が通訳するのであれば、通訳案内士の資格がなくても可能。また、通訳案内士が必ずしも地元的生活文化や歴史に通じているわけではないので、現状では 2 人組で対応するのが現実的。島のことがよくわかっている人がいれば通訳案内士 1 人で案内できる。</p>				
その他					
報告者	梅崎	報告日時	26 年/12/26	報告No.	長崎 2

3.6 長崎会場					
相談 3					
相談内容	古民家活用				
日時	平成 26 年 11 月 20 日 / 開始 : 11 時 00 分 - 終了 12 時 00 分				
会場	小値賀町役場				
相談者	地域	沖縄県離島			
	団体・所属	離島観光協会			
具体的な相談と回答	<p>相談 : 今年から、島では行政の支援を受けながら民泊が始まる。新しい取り組みとして古民家ステイもやりたいと感じた。古民家改修の際に補助金を利用したということだが、これは行政からやって欲しいという要望で始まったのか、行政に自分たちから持ち込んだ話なのか？行政からの支援をどのように受けたかを教えて欲しい。</p>				
	<p>回答者 (アレックス・カー)</p> <p>回答 : 以下の通り回答した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助金は、簾庵 (ちいおり) の改修だけは自己資金三割だが、他はすべて国の補助金で実施した。 ・地域の要望ではなく、行政主導で行った。行政が持ち主を一軒ずつまわり、理解を得ていった。20~30 年の長期契約を結び、ほとんど無料で貸してもらい、その代わりに行政がきれいにした。そして、オーナーは優先的に何日か泊まれるようにしたことで納得してくれた。 ・三好市は住宅交付金や空き家対策のお金のほか、落合集落は、文化庁のお金の交付を受けて改修した。この事業について言えば、当時の三好市の市長のリーダーシップが合って進んだ。小値賀も町長主導で実施した。ビジョンのある市長がいれば動く。 				
その他					
報告者	梅崎	報告日時	26 年/12/26	報告No.	長崎 3

3.6 長崎会場					
相談 4					
相談内容	参加者対応 (子ども)				
日時	平成 26 年 11 月 20 日 / 開始 : 11 時 00 分 - 終了 12 時 00 分				
会場	小値賀町役場				
相談者	地域	離島			
	団体・所属	離島観光協会			
具体的な相談と回答	相談 : 先日、小学生がグループでホームビジットとして夕飯体験に来た。その中に、言葉遣いの悪い男の子がいたので、とてもしかったと報告してくれた。学校の先生にどこまで話せばよいか迷った。民家さんは生徒に「学校には言わない」と約束したと言う。添乗員、先生に伝えるべきかどうか。実際にあったケースについて、対応方法を教えて欲しい。				
	回答者 (高砂氏) 回答 : 以下の通り回答した。 <ul style="list-style-type: none"> ・きちんと叱る事は必要。 ・報告するかどうかは、やってしまったことが何かという内容によるが、約束を守ることを基本とすればいいだろう。 ・人として許せない、いじめなどであれば、学校や親御さんへ引き継いでいかなければならないと思う。 				
その他					
報告者	梅崎	報告日時	26 年/12/26	報告No.	長崎 4

3.6 長崎会場				
相談 5				
相談内容	外国人受入実務			
日時	平成 26 年 11 月 20 日 / 開始 : 11 時 00 分 - 終了 12 時 00 分			
会場	小値賀町役場			
相談者	地域	宮崎県		
	団体・所属	地域おこし団体		
具体的な相談と回答	相談 : 外国人留学生を受け入れることが決まっている。ホテル旅館は全くない。具体的には、どこから始めればいいのか? 古い集落なので、暮らしの中で体験できることもあるので、ステイに耐えられる地域づくりをやっていきたい。			
	<p>回答者 (高砂氏、梅崎)</p> <p>回答 : 以下の通り回答した。</p> <p>① 過ごし方 : 小値賀では、初期は過ごし方のモデルを作った。</p> <p>② 保険 : 宿泊施設であれば、宿泊施設が入らなければ行けない保険がある。民泊であれば、体験型の保険に入る。JTB の基準で言えば 1 人 7,000 万円程度まで対応できる賠償保険への加入。おぢかアイランドツーリズム協会では、旅行業で入る保険、宿泊施設で入る保険、体験事業で入る保険と 3 重になっている。</p> <p>③ リスクマネジメント : リスクマネジメントは必ずしなければならないこと。海のプログラムや食事、スズメバチなど、命の危険に関わることもある。</p> <p>④ 事故発生時の対応 : 連絡体制や、救急法のトレーニング、事故報告書の作成やヒヤリハットの蓄積。リスクマネジメント研修を実施した記録を残す、等が重要になってくる。</p> <p>⑤ 情報提供 : 外国人の場合、日本人にはごく当たり前のことでもていねいにガイダンスすることが、お互い気持ちよく過ごす上で大切。小値賀では、生活の基本的なことはできるだけ表示している。</p> <p>⑥ 緊急時の対応 : エマージェンシーカードを渡していて、民家さんが困ったときには英語でコミュニケーションできる人に連絡がとれるようにしている。</p>			
その他				
報告者	梅崎	報告日時	26 年/12/26	報告No. 長崎 5

3.6 長崎会場				
相談 6				
相談内容	インバウンド体制づくり			
日時	平成 26 年 11 月 20 日 / 開始 : 11 時 00 分 - 終了 12 時 00 分			
会場	小値賀町役場			
相談者	地域	沖縄県離島		
	団体・所属	離島観光協会		
具体的な相談と回答	相談 : インバウンドを進める上で、旅行社との契約は 1 社との独占契約がよいのか？			
	<p>回答者 (梅崎)</p> <p>回答 : 以下の通り回答した。</p> <p>独占契約することで、旅行社にとってインセンティブとなるので営業に力を入れてもらえる面があるだろう。独占契約でスタートして、その後、様子を見ながら他社へ拡げていくこともできる。</p>			
その他				
報告者	梅崎	報告日時	26 年/12/26	報告No. 長崎 6

3.7 南アルプス市					
相談会 1					
相談内容	ツアープログラム企画				
日時	平成 26 年 9 月 20 日 / 開始 : 13 時 00 分 ~ 終了 17 時 00 分				
会場	山梨県南アルプス市有野 1090 有野公民館				
相談者	地域	南アルプス市			
	団体・所属	南アルプス市地域雇用創造協議会 事務局、ガイド (A~I)			
具体的な相談と回答	相談 : インバウンド受け入れ体制整備のため、モニターツアー造成について地域を背景としたツアーコンセプトの創り方について指導をお願いしたい。				
	<p>回答者 (福井)</p> <p>回答 : 「農山漁村の魅力を感じて来ていただくためのポイント等」について以下のような回答、指導をおこなった。</p> <p>①点の魅力ではなく、面的魅力を創り出す(プロバンスのハーブのある暮らし等を例に)ことが大切。</p> <p>②「コンセプト」をどう創るか。南アルプス市の魅力は何と言っても水に苦勞した歴史(治水・利水)であり、それをどのようなコンセプトで表現するか。例えば「水の恵み旅」と言うように決め、そのコンセプトに沿ったツアーを造成する。 ⇨次回までに関係者で協議し決定することとなった。(コンセプトとツアー内容)</p> <p>③モニターツアー日程等について相談、協議した。 具体的な協議事項は、日程(案)、モニターツアー準備と役割、ワーキンググループについて</p> <p>④モニターツアーの内容について、質量が増大する可能性が高いため実行委員会メンバーを増やす必要が生じ、受講者(エコツリズムコーディネーター養成講習会)全員に呼びかけることを決定した(次回から出席依頼 合計 12 名予定) ⇨受入体制整備の指導をおこなった</p>				
その後の対応	<p>*相談会后、別途対応や連絡が必要な場合は記入ください。</p> <p>11 月 3 日、あらためてツアー内容、受入体制についての相談会を実施することとなった。</p> <p>相談会の様子</p> <div data-bbox="705 1626 1078 1877" data-label="Image"> </div>				
告者	福井	報告日時	26 年/9/21	報告No.	南アルプス 1

3.7 南アルプス市		
相談会 2		
相談内容	ツアープログラム実施	
日時	平成 26 年 11 月 3 日 / 開始 : 13 時 00 分 ~ 終了 17 時 00 分	
会場	山梨県南アルプス市有野 1 0 9 0 有野公民館	
相談者	地域	南アルプス市
	団体・所属	南アルプス市地域雇用創造協議会 事務局、ガイド (A~I)
具体的な相談と回答	相談 : 11 月 22 日 ~ 23 日に実施するインバウンドモニターツアープログラムと受入体制について、自分たちで創った内容で良いかの相談	
	<p>回答者 (福井隆氏)</p> <p>回答 : ① 日程案について 10/24 に決定した日程案等をもう一度説明を聞き、一つずつ具体的に内容を確認し意見を出し合いながら追加・修正した。(ひとつの場所ごとにプログラムを作成する。そのために次回までに各担当が説明者等と打ち合わせをして各プログラムを作成することとした)</p> <p>日程については、いくつか細かい点を修正し別紙の日程案に落ち着く。(その後の対応に記入)</p> <p>② 準備と役割についての相談指導をおこなった。(別紙その後の対応に記入)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当日の各委員の役割については、各担当がその場所に張り付く。 ・ 水宮神社、提灯行列・夜祭、交換会(宿泊所)、ほうとう食体験は全員参加。 <p>写真 : 相談会の様子</p> 	
その後の対応	<p>* 相談会后、別途対応や連絡が必要な場合は記入ください。</p> <p>次回、メンバーだけで集まって平成 26 年 11 月 13 日 (木) 午後 7 時 30 分より有野公民館にて最終の協議をおこなうこととなった。</p> <p>また、夜のお祭りのちょうちん行列に参加することが体力面等で大丈夫かどうかを、11/8 の夜、メンバーで提灯行列コースを歩き旅行者が普通に歩けるコースかを確認し次回委員会時に日程に入れるか確定するよう指導した。</p>	

<ツアー内容>外国人モニターツアー日程(案)

・期日 2014年11月22日(土)～23日(日)

・コンセプト 『水の恵み旅』

・1泊2日(一人30,000円)の旅を想定

◎11月22日(土) 1日目

11:00 甲府駅集合・出発(車にて)→11:45①水宮神社(お参り・水宮神社の概要説明・お茶、ランチ、フルーツ(加工品を含めて多種類)のおもてなし

→13:30②(忍者の衣装 or ハッピー着用—(移動中に良い風景(例えばループ橋から)を見ながらいければ理想的)

14:00③あんぽ柿づくり体験(つるし柿の風景、展望の良い農家の庭先等にて)

16:00 宿泊所(温泉 未定)へチェックイン(少し休憩)→17:30 宿泊所発

→18:00④穂見神社夜祭提灯行列参加(ほたるみ館出発 夕食の用意 星、月、川のせせらぎ重要)

20:00⑤高尾穂見神社(夜祭体験:神社概要説明・祈祷・餅まき・神楽見学等)→

21:00 穂見神社発(車)→21:30⑨宿泊所着(入浴・就寝)

○高尾夜祭参加について

・参加費は一人1,000円(提灯、お守り、トン汁、保険代)

・夜祭参加には①運動靴②着替え③ヘッドライト(出来れば)が必要

・穂見神社の駐車場は200台OK

◎11月23日(日) 2日目

○朝食(フルーツが多種類出せば)

9:00 宿泊所発→9:30 氷室神社(神社概要説明・参拝・復活の水・1200年ご神木(大杉))→林道通過→⑦南アルプス眺望箇所-富士山眺望箇所通過

→10:20 池の茶屋駐車場→10:45⑦(展望台:八ヶ岳・鳳凰三山・甲斐駒ヶ岳・北岳)→11:15 池の茶屋発→12:00⑧ほたるみ館(昼食:ほうとう食べ体験)

→13:30⑨治水・利水施設見学(四ヶまち堰頭取口・石積み出し・枘形堤防・調整池・将棋頭・スプリングデモストレーション・その都度概要説明)→15:00⑩ティータイム(矢崎家にてアンケート等)→15:30 矢崎家発→16:00 甲府駅着(信玄銅像前にて記念撮影)→16:15 解散

◎氷室神社「神秘の水(復活の水)」の仕掛けの例

朝食時に予め用意した(氷室神社から湧き出ている水をペットボトル(洒落たビンでも良い)に詰めておき、宿の冷蔵庫で冷やしておく等)水を飲ませ or その水でコーヒーを入れる(この時、この水は神秘(復活)の水であることをPR)。その後、氷室神社で神秘(復活)の水を希望者だけペットボトル等に詰めてもらう。

◎モニターツアー準備と役割		○印は責任者です	
担当名	担当者	内容	備考
統括	事務局	モニターツアー全体をコーディネートし統括する	
① 水宮神社、⑨ 利水・治水施設見学担当	○○	水宮神社、治水・利水施設見学の企画・準備。お茶、昼食弁当等の手配。説明者との打合わせ他。	
② 忍者・ハッピ、 ③ あんぽ柿、⑦ 富士山・南アルプス眺望担当	○○	忍者服 or ハッピの手配。あんぽ柿づくり体験、富士山・南アルプスの眺望企画・準備。あんぽ柿づくり指導者との打ち合わせ他。展望台でコーヒー&タルトを出す。パラグライダー場借用(あんぽ柿づくり)	
④ 灯行列、⑤穂見神社夜祭参加、⑧ほたるみ館昼食(ほうとう食)担当	○○	高尾穂見神社夜祭参加、2日目昼食(ほうとう食)の企画・準備。夕食準備(ランチボックス等で)。説明者との打合わせ他	
⑥氷室神社、⑩ティータイム、宿泊所担当	○○	氷室神社参拝、ティータイム企画・準備。宿泊所の手配。説明者との打合わせ他。	
通訳担当	○○	当日の通訳内容等の企画・準備。	
配車担当	市役所	ツアー中の配車企画・準備。	
広報担当	市役所、協議会	ツアーのPR企画・準備。当日の写真撮影	

	事務局	協議会、市役所	ツアー準備・当日の庶務、 会計、記録等	
報告者	福井	報告日時	26年/11/4	報告No. 南アルプ ス2

3.7 南アルプス市		
相談会 3		
相談内容	モニターツアーのふりかえり	
日時	平成26年12月11日／開始：1時00分 ～ 終了 5時 00分	
会場	山梨県南アルプス市有野1090 有野公民館	
相談者	地域	南アルプス市
	団体・所属	南アルプス市地域雇用創造協議会 青沼さえ子、小林富士男、小川秀一、名取寛、東海林、中込雄二、有野一成（協議会事務局）
具体的な相談と回答	相談：インバウンド受け入れ体制整備のため、モニターツアーの実施を受け今後の体制について相談を受けた。まずは、モニターツアーの反省と評価をおこない、今後についての方向性を示した。	
	<p>回答者（福井隆氏）</p> <p>回答：「今後のインバウンドツアー受入」について以下のような回答、指導をおこなった。</p> <p>まずは、関係者の反省ポイントの確認から</p> <p>●反省ポイント</p> <p>①モニターツアーの反省点について、各自から以下の反省点と感想が出る。</p> <p>○全体的には成功したが時間的に詰め込みすぎた。一つ一つ詰めていけば、今後すごく良いものができる。</p> <p>○天気に恵まれた。時間的にも内容的にも詰め込みすぎの部分があった。</p> <p>○担当内は上手くいったが時間的に余裕がなかった。</p> <p>○初めての経験で慣れてなかったこともあり、受け入れ側の体制が整ってなくて時間等が詰まってしまう等支障があった。</p> <p>○日程的に込み入っていた。2日間との天気が良く助けられた。</p> <p>○ほたるみ館が日程のベースになっていたのそこで到着くことができ良かった。</p>	

た。

○細かい点はいくつか反省すべきところがあるが全体的に各担当の準備等が良く出来ており一つ一つ内容は充実していた。しかし、皆さんもご指摘のように内容を盛りだくさん盛りすぎて時間的に余裕がなく、ツアー参加者には忙しい旅をさせてしまった感がある。特に氷室神社ではもう少しゆっくりした日程があればと感じた。

◎要約

全体的には成功だが日程を詰め込みすぎでツアー客を急がせすぎた。今後は一つ一つの体験・見学場所でゆっくり過ごすことが必要である。さらに受け入れ体制をしっかりとしていくことが必要である。また、インバウンド観光の体制整備のポイントとして、時間をゆっくり楽しみたいと言う欧米の人たちの志向やニーズに対応し、農山漁村のゆっくりとした時間の過ごし方を「コンテンツ」として提供することが一つの方向性であることが確認できたと言える。

●次にモニターツアー参加者のアンケート結果について検討した。

- ・福井からモニターツアー参加者からのアンケートの結果（別紙）説明

○内容について、今回のツアーの中身については大満足していただけたことが伺える。しかし、日程的には、やはり余裕がないところが多分に見受けられ、今後はあれもこれもではなく幾つかに絞り込んで日程を組むことが大切であると指摘し、メンバーで確認した。

●今後の実行委員会の方向と受入体制整備について

- ・福井から、久留米市等の人気ツアー（「まち旅」の成功事例）の内容について紹介し、今後、本実行委員会が進んでいく方向について指導協議した。具体的には、コンセプトに沿ったツアーをさらに充実させ、プログラムも複数開発すること。また、受入体制としての組織、マネジメント体制を立ち上げることが必要であることを確認した。
- ・協議の結果、本年度の3月までに本実行委員会のメンバーを中心として協議会を発足し、来年度、本事業のノウハウや久留米市の先進事例等を学びながらいくつかのツアーを実施していく方向が確認された。このことは、12月29日に開く次回委員会で最終決定することになった。

⇨受入体制の方向性が固まった。

報告者	福井	報告日時	26年/12/25	報告No.	南アルプス3
-----	----	------	-----------	-------	--------

3.8 札幌会場					
相談 1					
相談内容	GT への新規参入				
日時	平成 26 年 12 月 2 日 / 開始： 16 時 30 分 - 終了 18 時 00 分				
会場	ホテル札幌ガーデンパレス				
相談者	地域	道央			
	団体・所属	ファームステイ・体験農場			
具体的な相談と回答	相談：畑作農家でこれからファームステイと農業体験の受入を行っていく。北海道グリーンツーリズムのネットワークも活用させて頂き、体制を整えることと営業をしていきたい。				
	回答者（鈴木氏、山岸氏、福井氏） 回答： 本業がありながらのビジターの受け入れは、何を目的に旅行者を受け入れるのか今一度コンセプトを確認することが大切。自らの農作物の売り先を広げる、農業全体の普及啓発など様々。忙しい中での対応となると思うので、常にここに立ち返ることは大切だし、お客にとっても魅力が高まる。				
その他					
報告者	荒井	報告日時	27 年/1/26	報告No.	札幌 1

3.8 札幌会場					
相談 2					
相談会の目的	集客・アクセス				
日時	平成 26 年 12 月 2 日 / 開始： 16 時 30 分 - 終了 18 時 00 分				
会場	ホテル札幌ガーデンパレス				
相談者	地域	道北			
	団体・所属	農家民泊体験			
具体的な相談と回答	相談：これまでは修学旅行や個人旅行者のファームステイを受け入れて来た。海外からの旅行者の受入を積極的に広報するつもりは無いが、来た際には断るつもりもない。無理せず出来る範囲で出来ることを実施していきたいと思っている。浜頓別は旭川空港から 4 時間かかる。海外からの旅行者にとっては来にくいところだと思うが、実際に来てもらえるのだろうか。				
	回答者（鈴木氏、山岸氏、福井氏） 回答： <ul style="list-style-type: none"> 旭川空港から 4 時間。千歳空港からは 6 時間もかかるので、海外からの旅行者にとっては非常に行きにくいところだろう。一方で、歌登町にタイからの旅行者がきている事例もあるので、常に可能性はあると思う。 大人数の受入はせずに、まずは、1、2 件の外国人を受け入れてみて、その口コミを広げていくのがよいと思う。「オホーツク」は流氷観光の影響でブランドイメージは高い。これまで行ったことのないオホーツク的な視点で、稚内周辺の暮らしを表現していく地域 DNA をぜひ考えてほしい。 				
その他					
報告者	荒井	報告日時	27 年/1/26	報告No.	札幌 2

3.8 札幌会場					
相談 3					
相談会の目的	体験の価格				
日時	平成 26 年 12 月 2 日 / 開始： 16 時 30 分 - 終了 18 時 00 分				
会場	ホテル札幌ガーデンパレス				
相談者	地域	道南			
	団体・所属	体験牧場			
具体的な相談と回答	相談：体験料を安く設定している。しかし、この金額でのサービス提供は経営的に大変だと感じている。一方で値上げをすることによる客離れが不安である。周りには多くの同業者もいる。				
	回答者（鈴木氏、山岸氏、福井氏） 回答： <ul style="list-style-type: none"> ・他の会社と比べて、クオリティが高く、ブランドイメージも良いし知れ渡っていると思う。値上げをすることには全く問題ないと感じている。自信をもってやってほしい。 ・現状で多くの外国人旅行者が訪れ、ジェラートの販売と体験観光でしっかりやっているように見える。札幌の牧場から移住しこの地に根ざしてやっている歴史もある。単なる体験牧場ではなく、北海道の酪農の歴史などより深みのあるプログラムが実施できる可能性もあると思っている。 ・外国人向けの言語はどうしているのか？→基本的には日本語で。片言の英語とジェスチャーが主。 				
その他					
報告者	荒井	報告日時	27 年 / 1 / 26	報告No.	札幌 3

3.8 札幌会場					
相談 4					
相談会の目的	既存プログラムからインバウンドへの発展				
日時	平成 26 年 12 月 2 日 / 開始： 16 時 30 分 - 終了 18 時 00 分				
会場	ホテル札幌ガーデンパレス				
相談者	地域	道南			
	団体・所属	体験推進協議会			
具体的な相談と回答	相談：子供の宿泊体験を中心に、子供の長期宿泊体験を推進するためのプログラムづくりをしてきた。これを外国人向けにアレンジすることをこれから考えたい。				
	<p>回答者（鈴木氏、山岸氏、福井氏）</p> <p>回答：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで整えてきた体制を、外国人向けにも使えると思う。地元の理解が得られれば子供に限定することはせず、大人にも農家民泊等を提供できると良い。 ・寺部さんのようなコーディネーターが地域には必要である。農山漁村交流単体では、そのようなコーディネーターを置くだけの人数はいないかもしれないが、観光協会やコンベンション協会などと連携して、外国人受付窓口があると十勝は広がる気がする。北海道の食料基地としても外国人受け入れは頑張ってほしい。 ・大人数を複数の農家で受け入れるなどとは考えずに、1ファミリー4名様を受け入れる農家さんがあっても良い。「十勝の農業体験」「農家民泊」として外国人の家族が、農家さんの家にホームステイする内容でのプログラムは無理が無いと思う。 				
その他					
報告者	荒井	報告日時	27 年/1/26	報告No.	札幌 4

3.8 札幌会場					
相談 5					
相談会の目的	受入窓口機能について				
日時	平成 26 年 12 月 2 日 / 開始： 16 時 30 分 - 終了 18 時 00 分				
会場	ホテル札幌ガーデンパレス				
相談者	地域	道内			
	団体・所属	地域 GT 推進会			
具体的な相談と回答	相談：私たちの活動場所は、千歳空港から 1 時間以内である。アクセスが良いので北海道のゲートウェイとなる可能性も考えたい。必要な条件は何か？				
	<p>回答者（鈴木氏、山岸氏、福井氏）</p> <p>回答：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拠点となるコンシェルジュ・インフォメーションセンター。ここでは事前のやり取り、当日の立寄りインフォメーションセンターとなる。ゲートウェイとしてワンストップで全ての情報収集や手配ができ、何かあれば相談できる窓口はともありがたいと考える。一方でそのコストをどう負担するかが鍵。これは自治体の支援や観光業者とで協議しながら、方針を立てて整備していくべきこと。 ・JICA など日本での研修や在日外国人を対象にしたプログラムを実施して、地域の人が、外国人対応をしていくのはとてもよいステップだと思う。 				
その他					
報告者	荒井	報告日時	27 年/1/26	報告No.	札幌 5

3.8 札幌会場				
相談 6				
相談会の目的	地域の受入意欲			
日時	平成 26 年 12 月 2 日 / 開始： 16 時 30 分 - 終了 18 時 00 分			
会場	ホテル札幌ガーデンパレス			
相談者	地域	北海道内		
	団体・所属	体験・農家民泊農場		
具体的な相談と回答	相談：子供の農家民泊を初めて 10 年になる。長沼や空知管内、十勝管内とも連携しながら、農村交流体験の推進を進めて来た。外国人を受け入れるにあたっては、受け入れ農家さんにとってのハードルが高い。言葉が通じないで不安感が高まってしまう。そう簡単ではない。			
	回答者（鈴木氏、山岸氏、福井氏） 回答： <ul style="list-style-type: none"> ・これは他の地域の事例を聞くと良い。まだ数は少ないが、そのような苦勞をして、地域の合意をとり外国人を受け入れ始めたところは増えつつある。これは外国人に限らず、15 年ほど前にファームインを始めたときに「旅行者をうちに泊めるなんて…」の感覚と同じだと思う。 ・東川町の場合シンポジウムのパネルディスカッションにあったとおり、既に多くの外国人留学生が来ている。この人たちを対象に民泊をすることは地域の農家さんにとっては良い練習になるだろう。 ・なぜ外国人旅行者を受け入れるのかの部分をしっかり共有することが重要 			
その他				
報告者	荒井	報告日時	27 年/1/26	報告No. 札幌 6

3.8 札幌会場				
相談 7				
相談会の目的	インバウンドの人材育成			
日時	平成 26 年 12 月 2 日 / 開始： 16 時 30 分 - 終了 18 時 00 分			
会場	ホテル札幌ガーデンパレス			
相談者	地域	札幌市		
	団体・所属	NPO 法人		
具体的な相談と回答	相談：子ども農山漁村交流プロジェクトやふくしまの子供たちを受け入れる事業で 200 人程度の若者を現場に送り込んでいる。そのために事前研修会や若者のやる気を高めるイベントを行っている。外国人向けのグリーンツーリズムの推進にあたってどのような役割の担うことができるのか？			
	<p>回答者（鈴木氏、山岸氏、福井氏）</p> <p>回答：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化の進む農村にこのような形で若者との交流を生み出すのはすばらしい。 ・外国人対応においては言葉の問題があるので、外国語を学んでいる学生と旅行者と農家さんのマッチングができると、受け入れやすくなるかもしれない。 ・若者は、研修中の身。おもてなしなどでは未熟なところもあるだろう。一方で旅行者はお金を時間をかけて北海道に来ている。そんな外国人旅行者に意識の低い若者を付けると旅行者の満足度は下がるので、マッチングは慎重にしないといけない。事前研修や継続的な関わりの中で段階的に人材が育っていく仕組みが必要だろう。この課題をクリアできるコーディネートができると、多くの若者が多くの外国人を受け入れられるようになり社会的に意義がある。頑張ってもらいたい。 			
その他				
報告者	荒井	報告日時	27 年/1/26	報告No. 札幌 7

3.9 十勝会場					
相談 1					
相談会の目的	インバウンド受入体制				
日時	平成 26 年 12 月 3 日 / 開始： 9 時 30 分 - 終了 11 時 00 分				
会場	新得町（ヨークシャーファーム）				
相談者	地域	北海道内			
	団体・所属	地域協議会			
具体的な相談と回答	<p>相談：先日、タイからの旅行者を受け入れた。実施してみたところ、お客様の満足度は高かったように思う。地域側の反応も新しい体験ができることは楽しく思っている様子。しかし夏になり本業が忙しくなると受け入れてくれる農家さんは少ない。旅行者にとっては北海道の夏に期待が、地元にとっては夏は受け入れられず、この調整が簡単ではない。</p>				
	<p>回答者（鈴木氏、山岸氏、福井氏）</p> <p>回答：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずはやってみて、試行錯誤で進める姿勢はすばらしいと思う。その時の地域に対するコーディネーターの姿勢がポイント。地域のために外国人を受け入れるのだから、地域の満足度をどうあげるか。どうやって一緒に同じ方向を向いてお客様とつきあっていけるかを常に考え、行動していくことが大切。 ・この時期に受け入れて、実際にどんな体験をしたの？農家さん達は「この時期はすることがないから難しい」と言いそうなのに、そんな中で受け入れたのはいい実績。⇒農作業はなくとも、農家生活体験、自然散策などをした。 ・大人数を受け入れる形を目指すか、そうでなければ、1軒からでもいいのでやってみたい農家と組んでみるのも手。その様子を見て「うちでもできそう」となってくれることを目指して。 				
その他					
報告者	荒井	報告日時	26 年/12/7	報告No.	十勝 1

3.9 十勝会場					
相談 2					
相談会の目的	インバウンドへの拡大				
日時	平成 26 年 12 月 3 日 / 開始： 9 時 30 分 - 終了 11 時 00 分				
会場	新得町 (ヨークシャーファーム)				
相談者	地域	北海道内			
	団体・所属	農業・農家レストラン経営者			
具体的な相談と回答	相談：有機農業をしている。畑のレストランや障害者の受け入れもしている。畑の横に宿泊施設も立てた。新篠津村は札幌から 1 時間とアクセスも良い。様々な農村交流のやり方があるが、外国人旅行者の受け入れも考えていきたい。北海道の農業や農作物を世界に発信するいい機会だと思う。				
	回答者 (鈴木氏、山岸氏、福井氏) 回答： <ul style="list-style-type: none"> ・既に多くの実績をあげておられる。みなさんのお手本になってもらいたい存在！ ・有機農業をこれだけの規模でやっている農家さんはそう多くない。本業が忙しい中でもこうして新たな取り組みをされている。我々のような会社やガイドさんの協力を得ながら進めていくことが無理が無い。観光は 1 者がもうけるというよりも、多くの個人や団体が少しずつお金をもらいながら、継続的に続けていくのがいいモデルだと思っている。 				
その他					
報告者	荒井	報告日時	26 年/12/7	報告No.	十勝 2

3.8 十勝会場				
相談3				
相談会の目的	資源・コンテンツの有効活用			
日時	平成26年 12月 3日／開始： 9時 30分 - 終了11時 00分			
会場	新得町（ヨークシャーファーム）			
相談者	地域	北海道内		
	団体・所属	自治体観光担当		
具体的な相談と回答	相談：役所で観光担当をしている。石狩は農業・漁業がある。札幌とも近い。海浜植物保護センターや風力発電などの環境保全にむけても積極的に動いている。この資源をうまく活用したい。			
	回答者（鈴木氏、山岸氏、福井氏） 回答： <ul style="list-style-type: none"> ・北海道の日本海側は、太平洋やオホーツクと比べて水揚げ量は少ないが、多くの種類がとれる。これが特徴だと思う。体験活動の視点からは一種類で沢山の分量よりも、種類が多い方が魅力的。朝市などはうまく活用したい。 ・今後のグリーンツーリズムの推進にはコーディネーターを配置することだと思う。石狩市は地理的にも資源的にも魅力的。受け入れ窓口や地元の人たちをつなげられるフットワークの良い人材がいて、その人が地域を駆け回りながら、地域の信頼を得ながらプログラムを作っていく状況にしたい。 ・札幌で若者の社会参画を促すNPOなどとの連携はどうか？⇒うまくいっていると思う。少しずつだが成果が上がっていると感じている。 			
その他				
報告者	荒井	報告日時	26年/12/7	報告No. 十勝3

3.9 京都府美山町		
相談会 1		
相談会の目的	モニターツアー実施について	
日時	平成 27 年 1 月 31 日～2 月 1 日／開始：13 時 00 分 ～ 終了 17 時 00 分	
会場	京都府南丹市美山町 田歌集落周辺フィールド	
相談者	地域	美山 田歌集落
	団体・所属	(株)野生復帰計画 青田氏 藤原氏
具体的な相談と回答	<p>相談：インバウンド受け入れ体制整備のため、モニターツアー造成について地域を背景としたツアーのあり方と内容について指導・助言をお願いしたい。</p> <p>⇨1/31～2/1 に、田歌舎主催の狩猟体験ツアーに同行し、これをプレ体験モニターツアーと位置付け、ツアーに同行した。その上で外国人向けインバウンドツアーとしての内容・体制について指導助言をおこなった。</p> <p>回答者（福井氏）</p> <p>回答：「外国人向けに、山村の暮らしの魅力を感じて来ていただくためのポイント等」について以下のような回答、指導をおこなった。</p> <p>①狩猟だけの魅力ではなく、美山の暮らしと言う面的魅力を創り出す(プロバンスのハーブのある暮らし等を例に挙げて)ことが大切である。そのため、狩猟の体験ツアーに入る前にガイダンスとして、美山の山や里での暮らしや獣害と自然環境のバランスなどについて、スライドを使って見せることとした。また、狩猟に入る前、猟の安全と成功を祈願して、地元の山の神様にお祈りを捧げることをツアーに組み込んだ。</p> <p>②当狩猟体験ツアーは、外国人向けと同じく 10 名を定員としたが、人気が高く 40 名の応募があり、抽選で 10 名を選び実施した。このことを受け、外国人にも魅力があり、人気のコンテンツになる可能性があるため、特に意識してツアーの内容をできるだけ狩猟の魅力や、その後の「いのちをいただく」など、それぞれのパーツを魅力あるものとするように指導した。その中で、特に自然と人間の織りなす山村の暮らしのありようが伝わるような内容を組み込んだ。</p> <p>③モニターツアーの具体的な段取り、時間配分、役割分担等について相談、協議した。</p> <p>④美山の狩猟とジビエ体験に加え、日本の山村の中でも特徴のある茅葺集落（北集落）を歩き、体験するメニューを加えた。</p>	
その他	<p>*相談会后、別途対応や連絡が必要な場合は記入ください。</p> <p>相談会の様子を以下写真で</p>	

写真1. ツアーガイドンスの様子



写真2. 狩猟のツアー



報告者

福井

報告日時

27年/2/28

報告No.

京都府南
丹市田歌
集落

3.10 熊本県阿蘇市					
相談会 1					
相談カテゴリ	インバウンド受入体制				
日時	平成 27 年 2 月 20 日 / 開始 : 14 時 30 分 ~ 終了 15 時 30 分				
会場	熊本県阿蘇市波野大字小地野 663-1				
相談者	地域	阿蘇市			
	団体・所属	ツアー受入れ団体 なみの高原やすらぎ交流館			
具体的な相談と回答	相談 : 農山村の魅力を感じていただくために、どのような内容を構成すればよいか、どのレベルでサービス提供をすればよいか大変迷った。また、今後の受入体制作りをどのように考えればよいか? アドバイスをお願いしたい。				
	<p>回答者 (梅崎靖志、山口久臣)</p> <p>回答 : 以下の通り回答した。</p> <p>①モニターツアーの実施内容をふりかえり、今後のポイントの整理を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回のツアーでは、普通の観光ではできない体験や交流が、参加者にとって魅力になった。欧米人は、個人でプランして行動することを好む傾向がある。選択メニューや地域情報の提供をすることで、ニーズに合った内容とすることができ、満足度が上がる。年齢層に応じて内容を変化させることも必要。 ・日本の農村の生活文化を体験できる機会を設けることは、特別な体験となる。サービスレベルは、日本人向けと同様で問題ない。 <p>②外国人を受け入れる体制作りを進めるためには、地域にとって外国人を受け入れることの意味と、外国人にとって魅力を感じるツアーコンセプトの両方が必要。高齢化が進む中、地域の協力者に過度な負荷がかかるおそれがあるならば、受入数の調整を行う必要がある。近隣地域のホテル等と協力して広域的な受入体制を作ることもできる。</p> <p>③やすらぎ交流館がDMOとしての体制作りをすることが、継続的に地域で受け入れていく上で有効。</p>				
その後の対応	<p>*相談会后、別途対応や連絡が必要な場合は記入ください。</p> <p>来年度以降も、外国人受入体制をつくり定着させるための継続的なサポートを希望。</p>				
報告者	梅崎	報告日時	27 年/3/26	報告No.	阿蘇

取組4：モニターツアーと検証

4.0 広報と集客について

(1) はじめに一集客の戦略

今回、各ツアーにおいて、それぞれ10名を目処に集客を行うこととした。

なるべく多くのモニターを効果的に獲得するため、国内の在日ネットワークやメディアを利用して集客を行った。

(2) 特設ホームページ、英語パンフレットの作成

1) ホームページを開設

各ツアーの内容や概要、同ツアー共通の参加条件を英訳したホームページを開設。海外・在日の外国人ネットワーク内でのシェアや紹介を狙った。関係者やメルマガでの拡散を図る他、twitter や Facebook に定期的に投稿した。

阿蘇のモニターツアーの募集の際、日本人による在日外国人への紹介を促すためには、日本語ページもあったほうがよい、というアドバイスを受け、一部を日本語併記とした。

*HP 画像入る

WE LOVE ECO TOURISM NPO法人 日本エコツーリズムセンター ECOTOURISM JAPAN

www.eco-tour.jp

ようこそ! サイト管理者 さん 2015年03月27日(Fri) 09:47 JST WE LOVE ECOTOURISM! エコツーリズムで地球を元気にしよう! ★エコセンをShare

ホーム エコツーリズム Cafe Project About us カレンダー 雑学版 キャンパリ 問合せ サイトマップ ログアウト English

検索

検索オプション

エコセンメルマガ

メルマガ申込み

バックナンバー

Visit rural areas involved in NIPPON GREEN TOURISM

教育と刃物

Google

Google 検索

www を検索

エコセンの中を検索

RQ 一般社団法人 RQ 災害教育センター

新田舎で働き隊!

おひなで守りみんなの未来

地球環境基金

事故ゼロ SAFETY OUTDOOR

NIPPON GREEN TOURISM Monitoring Tour 2014

モニターツアー参加者募集

日本の農山漁村を訪ねるニッポン・グリーンツーリズム

英語での紹介はこちらを!

受付中

このモニターツアーは、日本の農山漁村を訪ね、郷土食や地元の人々との交流を体験するグリーンツーリズムプログラムです。NIPPON GREEN TOURISMでは、訪日および在日外国人の方々に、観光旅行とはひと味違う日本の魅力をご紹介します。

外国人向けモニターツアーです。ご興味のある方にぜひご紹介下さい。英語での紹介文は下記をご覧ください。

This Monitoring tour is a program in which you will visit the rural areas involved in green tourism, experience the actual lifestyles in these areas such as production activities and food culture, and interact with the local people. An English-speaking guide will accompany you on the tour and help with the exchange.

To use as reference in welcoming international tourists to each area in the future, all participants are asked to cooperate with questionnaires and discussions during the program. If you would like to participate, please send an e-mail to the address below for inquiries and applications. Applications will be closed once all places are taken. The program organizer's office will send detailed information and instructions about the tour to those who have been accepted.

Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries 2014 Grant for Comprehensive Program for Urban-Rural Symbiosis and Exchange/Development Plan/Wide Area Network Promotion/International Tourist Welcoming System Development Project

Participant are not wanted now. 参加者募集中のツアーはありません。また、来年度

★Visit rural areas involved in NIPPON GREEN TOURISM★

【Course.B/Aso Town, Kumamoto Prefecture】

Experiencing lifestyle of Aso in winter.



Date:20th Feb. 2015 - 21st Feb. (1night 4meals)

Accepted applicants: 7~10

➔ Schedulea program of Course.B 旅程はこちらから



Joining qualifications.

※ As a general rule, the organizer covers meals, accommodation and transportation included in the program. ※ The participants bear the expenses for traveling up to meeting/end places of each tour, shopping during the tour and eating and drinking outside the program. ※ The organizer takes out accident insurance and liability insurance for participants this time and compensates for injury or illness, and personal accident damage that may occur during the tour. The details are provided separately.

Conditions for Participation

* Tourists with non-Japanese nationality visiting Japan or foreign residents in Japan. * Those who are healthy, able to manage oneself and able to communicate with other participants and local people. Generally 20 years old or older. * Chronic diseases and allergies should be declared in advance. * Fill out a questionnaire as a tester and participate in the discussion. ※ Questionnaire result or advice are utilized when Ecotourism Japan and the Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries plan green tourism in future. Personal information is protected. ※ During the tour, staff takes pictures and they are utilized for future promotion. Please inform the staff if there is a problem with it.

How to Apply

If you would like to participate, please send a e-mail to the adress below "For Inquiries and Applications". Applications will be closed once all places are taken. The program organizer's office will send detailed information and instructions about the tour to those who have been accepted.>

Please fill out the following information,


1. Desired tour area.
2. Full name, gender, age, nationality of all participants.
3. Contact information (mobile phone, address) of the representative.
4. Scheduled date and time of arrival, in Japan, scheduled departure date, and arrival and departure airport in Japan.

【For Inquiries and Applications】

NPO Ecotourism Japan Contact: Yuko Inoue
desk@ecotourism-center.jp

※ Please make inquiries by e-mail.

The following are monitoring tours complied with. 以下、これまで実施したツアー

パンフレットは  こちらから

Please take one ,brochure Please pick up,here. 

➡イコセンProject1

[Course A/Kamifurano Town, Hokkaido]

The connections between food, agriculture, people and nature in Kamifurano



Biei and Furano in Hokkaido are popular for their beautiful scenery. Stay at a rural farmhouse cottage and enjoy a locally-raised beef & pork barbecue and freshly-harvested vegetables. Experience activities that can be called the definitive green tourism in Hokkaido, and explore developments in green tourism in central Hokkaido.

Date: 28-30 September (Sun.-Tues.) 2014, 3 days/2 nights

Accepted applicants: 10

Meet: 28 September (Sun.) at 9:30 in Sapporo City

Ends: 30 September (Tues.) at __: __ in Sapporo City

Tour organizer: Hokkaido Treasure Island Travel

[Course C/Shimanto City, Shimanto Town, Kochi Prefecture]

Old-fashioned life along the river: a tour of a village blessed by the Shimanto river water



The Shimanto river is a clear stream that is representative of Japan. In this tour, you'll visit the village along the Shimanto river and enjoy river fishing and farming along with canoeing and biking to get a feel for what life is like by the river. Stay at a private farmhouse, interact with local people and enjoy rice, vegetables and river harvests grown with the water of the Shimanto river.

➡ Schedule program of Course.C

Date: 15-17 October (Wed.-Fri.) 2014, 3 days/2 nights

Accepted applicants: 10

Meet: 15 October (Wed.) at 9:30 at Kochi Ryoma Airport (or at 10:00 at JR Kochi station)

End: 17 October (Fri.) at 16:00 at Kochi Ryoma Airport (or at 15:30 at JR Kochi station)

Taiheiyo Travel (Kochi Prefecture)

[Course.D/Minami-Alps City, Yamanashi Prefecture]

Sense the blessings of fruit trees in the Shangri-la of Japan and experience a traditional night festival



The foothills of Japan's Southern Alps lie at the foot of Mt. Fuji, Kitadake and Ainodake, which are some of Japan's most famous mountains. One of Japan's three largest alluvial deltas, this area offers views of expansive rural scenery along with the history of flood control and water utilization of the town's ancestors, including 16th-century leader Takeda Shingen. The tour offers a journey to experience the richness of the culture of everyday agriculture-centered life. Sense the blessings of fruit trees such as sumomo plums in the region that boasts the largest production volume in Japan, and participate in a festival that joyfully gives thanks for long-lasting fertility.

➡ Schedule a program of Course D

Date: 22-23 November (Sat.-Sun.) 2014, 2 days/1 night

Accepted applicants: 10

Meet: 22 November (scheduled) at JR Kofu station

End: 23 November (scheduled) at JR Kofu station

Cooperation: Minami-Alps City, Minami-Alps Local Job Creation Council

[Course.E/Kozaki Town, Chiba Prefecture]

Japanese food is rooted in fermentation: visit a village of fermentation and see sake brewing



Bordering on the Tone River, Kozaki Town has prospered since the Edo period as a place of sake brewing and soy sauce and miso (fermented soybean paste) production. It has developed its community as a 'village of fermentation'. This tour explores the fermentation culture, which is indispensable to Japanese food, by visiting Terada Honke, the sake brewery that has operated for over 300 years, and viewing the sake brewing process, along with tasting tofu, miso and soy sauce made using locally-produced soybeans.

➡ Schedule a program of Course E

Date: 15 January (Thu) 2015, 1 day

Tour organizer: Reborn Inc.

【Course.F/Miyamacho, Nantan City and Miyazu City, Kyoto prefecture】

Enjoy wild game, a winter delicacy, and experience winter life in the remotest mountain village of Kyoto



Walk the village in the remotest part of Kyoto where traditional thatched-roof houses remain, and experience the way of life in winter as passed down among generations in the mountain village. With an initial lesson by a local hunter, learn the wisdom in living with nature by experiencing hunting and cutting, cooking and then enjoying the wild game, to fully sense the blessings of the mountains.

➡ Detail of Course F

Date: 7-8 February (Sat - Sun.) 2015, 2 days/1 night
 Participation fee : 6,500 (per person)
 Tour organizer: Tautasya(Auberger)

1) 英語パンフレットの作成

全ツアーの内容を写真で紹介する英語表記パンフレットを作成。ビジュアルを重視した。
 各ツアーの日程、参加要項、集合場所、参加費、募集人数、参加条件、を英語で記した。
 仕様：カラー両面 A4 サイズ/1000 部

(3) ツアー全体の広報

1)パンフレットの設置ーパンフレットを訪日・在日外国人が多い下記に設置した。

- ・ゲストハウス：澤乃屋（東京都台東区）、有鄰庵（岡山県倉敷市）、阿蘇び心（熊本県阿蘇市）、シクロの家（愛媛県今治市）
- ・インフォメーションセンター：ツーリスト・インフォメーション・センター（東京都台東区）
- ・日本語学校：東京 YMCA（江東区）、東京日本語学校（千代田区猿樂町）、国際ホテル専門学校（新宿区）、神田外語大学、青山スクールオブジャパニーズ

2)パンフレットの配布

- ・トラベルマート：①主催者を通じて、海外バイヤー、メディア関係者へ配布。
②農林水産省ブースで通過客へ配布。および商談スペースに飛び込み営業。
- ・ツーリズムジャパン：日本へアウトバウンドを手配する海外旅行社へ案内。

2) 関連団体への広報協力依頼

- ・日中市民社会ネットワーク
- ・日本ユースホステル協会：東京セントラル YH の英語 HP での紹介と Facebook での案内および訪日旅行者への DM への記載を協力

・ふるさとふれあいプロジェクト HP での紹介

3) SNS の利用

当団体 Twitter、facebook

4) メディア

日本外国特派員協会 記者へ案内

Tokyweekender での紹介



(4) 各地ツアーの広報

i. 北海道上富良野

(株)北海道宝島トラベルが運営する北海道体験.com (<http://h-takarajima.com/>) に要項を掲載し、当社のメルマガで、国内外の旅行関係者へ情報提供した。

ii. 高知県四万十市、四万十町

四万十のツアー詳細を記載したチラシを作成し、高知県内の在日外国人に呼び掛け。

呼び掛け先：高知県内自然学校、高知大学・国際交流課国際連携係、高知県国際交流協会、英語HPのある県内宿泊施設（*お遍路のルートであることから、英語HPを整備する宿泊先が数軒あった）

チラシ：

Visit rural areas involved in NIPPON GREEN TOURISM

Shimanto 3 days/ 15-17 October (Wed.-Fri.) 2014, 3 days/2 nights
 Accepted applicants: 10
 Start: 15 October (Wed.) at 9:30 at Kochi Ryoma Airport (or at 10:00 at JR Kochi station)
 End: 17 October (Fri.) at 10:00 at Kochi Ryoma Airport (or at 10:30 at JR Kochi station)
 Tour organizer: Taiheigo Travel (Kochi Prefecture)

Tour No.	Day	Time	Activity	Remarks
15	09:30	10:00	meet	Meeting at the Kochi Ryoma Airport and Leada
	10:00	11:00	lunch	Dinner at a good "house of the Japanese" (Ojima) and Kochi
	11:00	12:00	experience	Learn about experiences farming in rural areas
16	09:00	10:00	experience	Visit at "Mito-Mikan". A visit and shopping of sake breweries of "Mito-Mikan" is famous of a local sake and "Shikoku-Miso"
	10:00	11:00	experience	Visit at the local "Miyoshi" or "Miyoshi"
	11:00	12:00	lunch	Dinner at "Shikoku" and Leada
17	09:00	10:00	lunch	Dinner at "Shikoku" and Leada
	10:00	11:00	experience	Visit at "Shikoku" and Leada
	11:00	12:00	lunch	Dinner at "Shikoku" and Leada
18	09:00	10:00	meet	Meeting at the Kochi Ryoma Airport and Leada
	10:00	11:00	lunch	Dinner at "Shikoku" and Leada
	11:00	12:00	experience	Learn about experiences farming in rural areas
19	09:00	10:00	meet	Meeting at the Kochi Ryoma Airport and Leada
	10:00	11:00	lunch	Dinner at "Shikoku" and Leada
	11:00	12:00	experience	Learn about experiences farming in rural areas
20	09:00	10:00	meet	Meeting at the Kochi Ryoma Airport and Leada
	10:00	11:00	lunch	Dinner at "Shikoku" and Leada
	11:00	12:00	experience	Learn about experiences farming in rural areas

*As a general rule, the organizer covers meals, accommodation and transportation included in the program.
 *The participants bear the expenses for travel to meeting/end places of each tour, shopping during the tour, and eating and drinking outside of the program.
 *The organizer will arrange accident and liability insurance for participants and compensate for any injury, illness, or personal accident damage that may occur during the tour. These details will be provided separately.

Conditions for Participation
 * Please apply with non-refundable international airfare ticket in foreign currency in Japan.
 * The fee for health, visa or take care of yourself, and other to accommodate with other participants are your expense. Participants should be at least 20 years old.
 * Any other diseases or allergies should be declared if advised.
 * Fee will be set at approximately 10,000 yen per participant and take part in a discussion.
 * Government approval is required and will be obtained by Ecotourism Japan and the Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries in January before green tourism program. Participants should be the applicant.
 * During the tour, the staff will take always rights that will be used for future publication. Please approve staff if you do not mind to be photographed.

How to Apply
 If you would like to participate, please send an email to the address below for inquiries and applications. Applications will be closed once all groups are taken. The program organizer's office will send detailed information and instructions about the tour to those who have been accepted.
 Please fill out the following information:
 ① Contact your area.
 ② Full name, gender, age, nationality of all participants.
 ③ Contact information (postal address, address of the representative, and e-mail) and telephone number in Japan.
 ④ Estimated date and time of arrival in Japan, international departure date, and arrival and departure airport in Japan.

For Inquiries and Applications: NPO Ecotourism Japan
 Contact: Taiheigo Travel (Kochi Prefecture) <http://www.ecotourism-center.jp>

Shimanto Crystal-clear river.

100km/hour 110% clear water river is a 1000m street to the Shimanto river valley. The Shimanto river is a clear stream that is representative of Japan. On this tour, you'll visit the village along the Shimanto river and enjoy river fishing and farming along with canoeing and biking to get a feel for what life is like by the river. Stay at a private farmhouse, interact with local people and enjoy rich, vegetables and river harvests grown with the water of the Shimanto river.

v. 京都府美山町

現地委託先・野生復帰計画により、当ツアー企画・広報・受付だけでなく、継続的なDMOの確立に向けて、下記のような体制で広報を行った。

目的) インバウンド旅行者および在住外国人(例えば、留学生や外資系企業の方など)のニーズと国内旅行情報ならびに現地プログラムをマッチングさせ適切な情報提供を行う機能づくりを目指す。

対象) 京都府内在住外国人および海外からの旅行者

京都府国際課を通じて、京都府名誉友好大使(学生)、在住外国人へ呼び掛け。

京都 YH 協会を通じて、外国人スタッフへ呼び掛け。

・チラシ



Enjoy wild game, a winter delicacy, and experience winter life in the remotest mountain village of Kyoto

Walk the village in the remotest part of Kyoto where traditional thatched-roof houses remain, and experience the way of life in winter as passed down among generations in the mountain village. With an initial lesson by a local hunter, learn the wisdom in living with nature by experiencing hunting and cutting, cooking and then enjoying the wild game, to fully sense the blessings of the mountains.

7-8 February (Sat. - Sun.) 2015, 2 days/1 night

Participation fee :6,500 (per person)

Accepted applicants: 10

※January 15 is the deadline for applications. In case of too many applications, we will hold a draw for place allocation.

※Conditions for Participation

Tourists with non-Japanese nationality visiting Japan or foreign residents in Japan. * Those who are healthy, able to manage oneself and able to communicate with other participants and local people. Generally 20 years old or older.

Apply <http://goo.gl/rPGOyL> or Could you send me your information by E-mail

※ Your Information : Name · Gender · Age · Food allergy (Allergen) · Address · Nationality · Telephone number

[For Inquiries and Applications] ※ Please make inquiries by e-mail.

NPO Ecotourism Japan Contact: Yuko Inoue desk@ecotourism-center.jp

Yaseifukkikei.inc Contact: Masaki Aota info@yaseifukki.jp



vi. 熊本県阿蘇市

発着地・福岡市を中心に、通訳ガイドで水村みずほ氏のネットワークで呼びかけを行った。

*チラシ

日本人からの在日外国人への呼び掛けを促すため、日本語を併記した。

Expected applicants: 10

It A) Fukuoka Station Or a hotel you stayed the night before at 11:00
 Fukuoka International airport at 12:00 on 20th Feb.
 B) Fukuoka International airport at 17:00 on the 21st Feb.
 Somewhere else between Aso and Fukuoka. Please ask and let us adjust it.
 Produced by Ecotourism japan

定員: 10名

集合:
 A) 午前11時に福岡駅もしくは参加者の泊まるホテル
 B) 午前12時に福岡国際空港
 解散: 午後17時に福岡国際空港その他応相談
 実施: NPO法人日本エコツーリズムセンター

2015/2/20		Fri		
1	AM		meet	Gather at the Fukuoka St. or Fukuoka International airport and Leave by car. 福岡駅および福岡国際空港で集合、車で阿蘇へ出発。
2	13:00		courtesy visit	Arrive at Aso city and visit the mayor of Aso city. 阿蘇市に到着、阿蘇市長を表敬訪問。
3	14:00		arrive	Arrive at the "Naminokougen Yasuragikan". なみの高原やすらぎ交流館に到着。
4	15:00		experience	Experiencing Aso's regional cooking food made by local products. 阿蘇の地産地消による食料で田舎料理づくり体験。
5	17:00		Onsen	Bathing hot spring and relaxation time. 温泉入浴&リラクゼーション
6	18:30		dinner	Interaction of local people, introduce culture of Kyushu, Kumamoto, Aso, and Taiwan. 夕食交流会/地域の方々との交流/九州、熊本、阿蘇および台湾の自然と文化の紹介・交流
2015/2/21		Sat.		
1	7:30		breakfast	
2	9:00		walking	Walking in the farming area of Aso, learning about their culture based on its nature. 農村集落を歩く、田舎の自然と文化体験、交流フットパス Visiting local family and have lunch with them (home visit) - Making your own souvenir learning from the family. フットパスの途中で家庭訪問、田舎のお土産作り体験。
3	12:00		Lunch	Having a lunch at local people's house (home visit). 田舎の過夜で地産地消の食事。



General rule, the organizer covers meals, accommodation and transportation included in the program.
 Participants bear the expenses for travel to meeting/end places of each tour, shopping during the tour, and eating and drinking outside of the program.
 The organizer will arrange accident and liability insurance for participants and compensate for any injury, illness, or personal accident damage during the tour. These details will be provided separately.

Conditions for Participation

Open to Japanese citizens and foreigners with non-Japanese nationality visiting Japan or foreign residents in Japan. * Those who are healthy, able to manage oneself and able to communicate with other participants and local people. Generally 20 years old or older. * Chronic diseases and allergies should be declared in advance. Fill out a questionnaire as a tester and participate in the discussion. ※ Questionnaire result or advice are utilized when Ecotourism is planned by the Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries plan green tourism in future. Personal information is protected. ※ During the tour, photos and videos are taken and they are utilized for future promotion. Please inform the staff if there is a problem with it.

How to Apply

If you would like to participate, please send an e-mail to the address below "For Inquiries and Applications". Applications will be closed once all spots are taken. The program organizer's office will send detailed information and instructions about the tour to those who have been accepted. Please provide the following information:
 1. Name and address (Kozakushi)
 2. Name, gender, age, nationality of all participants.
 3. Contact information (mobile phone, address) of the representative.
 4. Preferred date and time of arrival in Japan, scheduled departure date, and arrival and departure airport in Japan.

4.1 北海道上富良野

(1) 実施概要

日程：平成26年9月28日（日）-30日（火）

旅行主催：北海道宝島旅行社

(2) 参加者

国籍	年齢	性別	職業
タイ	44	女性	薬剤師
タイ	44	男性	経営者
タイ	44	女性	歯医者
タイ	30	女性	薬剤師
タイ	46	女性	コンサルティング
アメリカ合衆国	38	女性	経営者
アメリカ合衆国	48	女性	ソーシャルメディア
アメリカ合衆国	38	女性	マネジメント
アメリカ合衆国	56	女性	研究所主任
アメリカ合衆国	40	男性	銀行員

(3) プログラムスケジュール

9月28日（日） 「美瑛・富良野の田園風景とそこに暮らす人々に出会う」

9:30 札幌を出発
 12:00 上富良野到着（途中1回休憩）
 12:00～13:00 上富良野で昼食（花七曜） <ホップ農家の大角さんによる地域案内>
 13:00～14:00 田園ビューポイント（千望峠、ジェットコースターの道など）
 14:00～15:00 野菜の収穫体験（野口農園 ジャガイモ）
 16:00 チェックイン
 18:00～20:00 夕食 多田農園 焼き肉

9月29日（月） 「その土地でその人によって作られた野菜を収穫し味わう」

8:00～9:00 朝食
 9:30 出発
 10:30～11:30 土の館 上富良野の農業の歴史・土の特徴について
 多田農園 ワイン畑・田園フットパスウォーキング
 12:00～13:30 「あぜ道より道」で、北海道食材を使ったポトフ料理
 13:50～14:30 中富良野 ファーム富田 花畑見学
 15:00～17:00 中富良野コロポックル いちご狩りといちごスイーツ作り
 17:30 上富良野 多田農園&ペンションステラ 休憩
 18:30～20:30 十勝岳温泉入浴 夕食

9月30日（火） 「昨日の収穫は火山のおかげ～この土地を育む大雪山の自然に出会う」

7:30～8:30 朝食
 9:00 出発

9 : 30 紅葉の大雪山 ナキウサギウォッチング
 紅葉ウォッチング (20 分程度の森歩き)
 青い池の見学～美瑛

12 : 00～13 : 30 夢民村 地元の野菜バイキング お土産購入

13 : 30～17 : 00 札幌へ (途中休憩 1 回)

17 : 00 札幌市内解散

(4)参加者アンケートから

1) 今回のモニターツアーの中で、ご自分にとって「この場所で特別なこと」になったものやことはありますか？

- ・北海道のファームステイのライフスタイルが好きだ。
- ・北海道の食、農場、ライフスタイル。
- ・多田農園さんのやり方、社会への貢献が印象に残った。話の内容で心に残ったのは 1. 育った学校について。2. エコファーム、化学薬品をなるべく使わないようにしている。3. 持っているものを知って、それをさらに良いものにしていく努力をしている。
- ・食を存分に楽しんだ。農家と北海道の日本のライフスタイルを学ぶのが好き。
- ・この場所の特別なものは、一つのエリアに多くの体験があったこと。一つの旅でいろんな体験ができたこと。違うシーズンには違う体験ができる。また、このエリアはあまり混んでいないので、とても心地よく旅をすることができた。
- ・温泉、いちご狩り、日本の伝統料理を食べる、富田牧場、ステラ、多田農園
- ・1. 農家やペンションの方たちの情報量が多かった。個人的な関係を築くことができた。この場所をより特別な場所として感じる事ができた。2. すべてが美しい、3. すべてが新鮮でおいしい。
- ・人々、多田家族、朝倉家族、ガイドのカズさん
- ・人々はみんなとても親切で、上富良野を私たちに紹介するのに意欲的だった。地域の新鮮な産物と肉がお気に入り。
- ・農家との会話とツアーが一番思い出深い。

2) 今回訪れた地域は、あなたの友人に勧めたいと思いましたか？思ったとしたら、どのように紹介しますか。

- ・(はい) 私はブロガーで、旅行の体験をよくウェブで紹介している。タイにはこの体験について知りたい友人がいる。
- ・(はい) 次回北海道に来るときに一緒に来るように誘うだろう。多田農園で農家の文化と体験をする。
- ・(はい) 友達に、レストランや多田農園、そしてこのツアーのすべてを紹介する。良い食事、農場を見て、ケーキを自分で作って、とても楽しかった。勧めます。
- ・(はい) 友だちに勧め、このツアーの思い出をFacebookで友達にシェアする予定。もっと情報が欲しい人には直接説明する。
- ・(はい) 北海道は美しい。土地、山、木、食！

- ・(はい) 富良野の田舎の景色をみて、農家に会い、体験をして、ほとんどの観光客が体験できないことを体験できる。
- ・(はい) Facebook、Instagramで写真を見せる。上富良野は自然の美しさを体験できる場所。新鮮な空気、美味しい新鮮な食、成功している農業と素晴らしく親切な人々。
- ・(はい) 一人一人に合ういろんな体験がある事を説明する。農場からクッキング、そして自然体験（エコ）と地元の文化。

3) この地域を旅して、他に経験してみたかったことはありますか？

日本食を作る／釣り／野菜や果物の種まき／生け花、お茶体験／日本の祝事に加わる／ゴルフ／日本語冬のスキー／日本のライフスタイルを楽しむ／このエリアのサイクリングする／可能であれば、地元の祝事に参加したり、以下のような地元の文化を楽しむ／学校の授業に参加／日本の伝統的な料理／生け花／お茶体験／日本の工芸／地域を自転車で回る／クマが見たい！／温泉時間がもう少し長い方がいい／違うレベル・パッケージを準備する。例えば、アクティブな人には半日か一日のハイキングとサイクリングを含める。／雪の上富良野／野生の動物を見る クマ、キツネ

4) 今回のツアーについて、不自由に感じたことは何ですか？あったらよいと思うサービスや不要と思われた要素があれば教えてください。

- ・日本語が読めない観光客のための英語の情報がない。スケジュールがタイトなので、一部の人はもう少しリラックスできる時間が必要だ。
- ・より多くの情報を英語で。
- ・英語のサインや説明がすべて（トイレなど）についていけば、旅行者にとってもっと便利。
- ・家の中でスイッチを付けたたり消したりするものが多い。
- ・もっと多くの情報とコミュニケーションがあると良い。宿泊施設の写真や、持ってくるべきものの情報（タオルなど）。良いコミュニケーションは顧客の期待をマネージできる。実際の客の場合は、同僚にきちんと情報共有い、スムーズな返信を望む。
- ・すべての体験を楽しんだが、施設を訪れる際、英語の情報かパンフレットがあると良い。そうすると客がそれぞれのペースで楽しむ事ができる。

5) 旅行する際の情報収集は、どのように行いますか？出発前と旅行中の主な手段を具体的に教えて下さい。

- ・旅行計画ですが、私は多くのウェブサイトを見る。
- ・ホテル： Booking.com; Agoda.com; JapanJean.com;
- ・交通： Airway's Websites; Hyperdia.com
- ・インターネット
- ・フェイスブック
- ・タイの雑誌
- ・本
- ・インターネット： ソーシャルメディア、フェイスブック、ユーチューブ、ブログ、ウェブサイト

- ・現地に行った経験のある友達に聞く。また、ソーシャルメディアを使って人に聞く。
- ・写真、メモを取る、質問する。
- ・携帯で写真やメモを取っている。写真や体験をソーシャルメディアでシェアしている。(Instagram, Twitter, Facebook)
- ・#FuranoEcoTourというハッシュタグを使って、グループの写真を集めました。
- ・インターネットや他の訪問者の推薦

6) 今回のモニターツアーの感想や、地域の皆さんへのメッセージをお願いします。

- ・私はすべてのサービスに満足している。農家からガイド、旅行会社まで。タイの人に勧められるように、行った場所の英語の情報がもう少し欲しかった。地元の人はとても優しかった。ありがとうございます。
- ・良い人々、良い食事、良い農場
- ・多田さんご夫婦、ありがとうございました！
- ・ツアーでとても満足している。地元のすべての方はとても優しかった。
- ・日本の一番良い旅。良い食事、良い場所、良い人々
- ・私の人生にインスピレーションをくださった多田さん、ありがとうございます！
- ・日本で初めての旅行。自然と人が好き。農場を歩いたり、農場生活について聞くのが好きだ。
- ・私の父はタイで農家をしている。日本の農家やその技術をみたい。私の印象に残っているのは、多田さんと農場を歩くことだ。私のもった印象は美しい文化と地元の親切な人々。文化は感じがよく、ユニークで美しい。
- ・みんながとても優しく、土地と農場についての知識も多かった。
- ・ホスピタリティを見せてくれて、富良野を理解することを助けてくれたすべての人に感謝したい。
- ・ツアーをとっても楽しんだ。こんな短い時間にいろんな体験ができたのがよかった。収穫体験から温泉、ハイキングまで。
- ・私の一番好きだった体験は、収穫したものが食卓にのる体験だった。
- ・地域が一緒に働いているところを見ることができてよかった。

(5)活動写真と報告

■1日目(9/29)「美瑛・富良野の田園風景と野菜を味わう」

～北海道らしい風景～

札幌のホテルをバスで出発し上富良野町・花七曜で昼食。ここから地元のホップ農家・大角さんのガイドで地域ツアーが始まった。十勝岳連峰の火山と水による浸食でジェットコースターのように波打つ道路。その両側の畑には、トウモロコシ、ジャガイモ、麦など開拓当時から栽培している食物から、イチゴ、ブドウ、ホップなどの最近栽培を始めた作物もある。この地域の人達は、この土地の特徴を最大限に生かした農業を考え、様々な工夫をしている。



～ジャガイモとミニトマトの収穫～

野口農園へ立ち寄り、ジャガイモの収穫を手伝う。この広い畑で、こぶし程のジャガイモを全て拾うにはどのくらいかかるのか… そんな気持ちになった。野口さんは、今は全てトラクターで収穫する。トラクターで拾いきれない「野良イモ」は手で拾わないといけない。この畑は次に小麦を植えるので、ジャガイモが残ると後からまた生えてくると教えてくれた。収穫したジャガイモをお土産に分けてもらった。ミニトマトやナスの畑も



～収穫した野菜と地元の和牛で焼き肉～

多田農園にあるバーベキューハウスで、地元ふらの和牛や昼に収穫した野菜の焼肉を楽しんだ。地元農家や役場の方も加わり、自分達の農業への思い、ここに引っ越してきた経緯、ここで暮らしていくことの喜びや苦労などを語り合った。通訳を返して話すため、1人が話し全員が聞く雰囲気となり堅苦しい一面もあったが、地元の人声を聞く重要な時間となった。宿泊は多田農園のはなれと、ペンションステラの2か所に分れた。



■2日目（9/29）美瑛・富良野の田園風景と果樹を味わう

～土の大切さ、土との付き合い方～

宿の出発は9:30。それまでは、裏のジャガイモ畑で写真を撮ったり、川原を散策したりと、各々が自由に過ごしていた。

世界のプラウと土の博物館「土の館」は、地元の農機会社「スガノ農機」の私設博物館。開拓の歴史、自然をよく観察し試行錯誤の結果、現在土地改良が発達し、豊かな農作物がとれるようになった。これは、粘り強く諦めずにここで農業を続けてきた先人達のおかげであることを学んだ。



～新しい試み ワインブドウ畑ウォーキング～

土地改良のおかげで、畑作にふさわしい土ができた上富良野エリア。現在では、ブドウを育ててワインを作るなど、さらに新しい取組を進めている。

多田農園のぶどう畑を散策し、朝夕の寒暖の差がブドウの糖度を高めるのにふさわしいことなどを学んだ。コースの途中に閉校となった学校があった。自分が通った学校がなくなることは残念。しかし、それらも含めて、この地域でどのように暮らしていくかを、多くの人と共有しながら考えていきたいと語っていた。



～イチゴ狩りとケーキづくり～

昼食は、農家のお母さん5人で始めた農家レストラン「あぜ道寄り道」へ。旬の野菜を使ったポトフがお腹に優しく、落ち着いたランチタイムとなった。午後は、イチゴ狩りとケーキ作りにチャレンジ。富良野のイチゴはケーキなどに使われる加工用が多く、酸味があるのが特徴。出来上がった時の生地とクリームとイチゴの味をイメージしながらのケーキ作りとなった。ハワイでもタイでもイチゴは取れないので、もぎたてイチゴの歯ごたえと味に感動していた。



■ 3日目 (9/30) 収穫は火山のおかげ～この土地を育む大雪山の自然に出会う

～今も活発に活動する十勝岳とナキウサギ～

この2日間、ずっと大雪山国立公園と十勝岳連峰の山々を背に活動してきた。この日はついに、その中腹まで登った。標高 1,100m の十勝岳望岳台は、森林限界で火山によって出来たゴツゴツした岩場を散策した。ここはナキウサギの生息地であり「ピッ、ピッ」鳴き声が聞こえた。10分ほど、お茶を飲みながら景色を楽しみつつ、ナキウサギが現れるのを待ったが、今回は見る事が出来なかった。高山植物の紅葉や秋の実りがきれいだった。



～この色も火山のおかげ～美瑛・青い池～

火山成分が川の水に混ざり、それが空の青の光を集めることから青く見える。Apple 社のパソコンの壁紙に採用されてから、有名になりこの日も多くの旅行者が来ていた。美瑛の丘も、この青い池も、有名になったおかげで多くの人に来てもらい、美瑛の良さを感じてもらえる反面、地元人にとっては、自分達の土地に外の人が入ってくる時の問題点などが話題となった。「郷に入れば郷に従え」という言葉が出た。



～これまで見てきた野菜を丸ごと喰らう

サラダバーでおしゃべり～

ツアーの締めくくりは、夢民村のサラダバーでの昼食。地元産の野菜を食べ放題。様々なトッピングで自由なアレンジで楽しむことができる。隣には地元産のお米や野菜、日本酒やドレッシングなどの加工品が販売されており、味わったものをお土産として持ち帰ることができた。レストランのウェイターからは、この地域が他の地域と比べて何がどう違うのか等丁寧な解説があった。



(6) まとめ

○募集について

(株) 北海道宝島トラベルが運営する北海道体験.com (<http://h-takarajima.com/>)
に要項を掲載し、当団体のメルマガで、国内外の旅行関係者へ情報提供した。

○参加者との事前のコミュニケーションについて

(株) 北海道宝島トラベルの英語担当オペレーターが対応した。申し込みを受けた時に、参加者の選定を行い再度連絡することを説明し、合否が決定した後は、参加者と集合解散や持ち物など、参加者が問題なくツアーに合流できるサポートを行った。

○ツアーコーディネーターの所感

- ・企画運営側としては、テーマ性のあるツアーで行程を組み、要所では地域側の思いを強く伝える場面を持ったが、それがどのくらい伝わったかはわからない。ツアーのストーリーは、パンフレットに書き出して渡した方が伝わりやすいと感じた。
- ・参加者の心配事を解消する情報提供が重要である。スケジュール、トイレの場所・タイミング、宿や地域のルールなど。この情報提供がなされることで、参加者もより主体的にツアーに関わることができる。時間の有効活用につながる。
- ・地元の人との交流は身振り手振りでも十分。必ずしも通訳を通して会話のすべてを理解する必要はない。ただし、お互いに、コミュニケーションを取ろうとする意欲がある場合に限られる。
- ・宿泊(部屋・バス・トイレ)は、プライベートがあり快適にすべき。旅行者はここで体を休め体力的にもリセットして、翌日からの新たな経験に向き合うことができる。常に地元流では疲れてしまい、新しいことを受け入れる余裕がなくなる。
- ・ツアーコーディネーターは、「外国人のお客様がいい旅行者でいられるためのサポーター」でいなければならない。
- ・地元の人が外国人を受け入れて「嬉しい」「やってみて良かった」と感じることを目的なので、コーディネーターは、なぜ「この人は外国人をうけいれているのか」を理解し、地元の人を目的を達成できるようにツアー進行をしなければならない。

○現地受入の所感

・多田農園

普段から海外からの個人旅行者を受け入れている。北海道の農業や自然環境に興味関心の高い旅行者は受け入れていて気持ちがいいし楽しい。継続していきたいと思っている。

一方で、受け入れに対しては様々な課題がある。受付はほとんど英語なので、そのやり取りに手間と時間がかかる。気候や文化が違うため持ち物に関する情報も丁寧に出さないと分からない。このようなやり取りを担ってくれる窓口があると大変助かる。早い段階(3、4ヶ月前)に予約を受け付けて、当日まで連絡が無い場合もある。その時は来るかどうか不安である前金の仕組みを取り入れるべきか悩む。旅行者を受け入れる当日については、それほど問題を感じていない。個人旅行者はほとんどがレンタカーで来る。

今後の展開に向けては、人材不足を感じている。コーディネーターが必要。地域おこし協力隊などを活用してうちの農場に農業交流促進担当の人材をおけないか検討したい。

モニターツアーだけではなく、今後のつながるように広報をすることと、受入体制を整えることを期待したい。

農水省の子ども農山漁村交流プロジェクトやふくしまの子供の受け入れや、観光庁の事業など、様々な事業で一つのエリアに事業をまとめるのはとてもありがたい。成果が見やすくなると思う。

・上富良野町役場

上富良野町の資源で、ハワイとタイの方がどこに魅力を感じるのかが見えてきた。

ジェットコースターの道など、北海道らしい波打った直線道路であれほど写真をとるとは思わなかった。その後のフェイスブックを見たが、あのように発信されていて興味深かった。

土の館は、英語の説明が無い学習的な満足度があったかどうかは心配であるが、トラクターや農機に興味深く見ていたし、タイと比べての質問がでていた。ちょうど地元の小学生の写生会があり、外国人と地元小学生の交流が生まれたのは偶然とはいえ良かった。あのようなシーンは、旅行者にとっても小学生にとっても良いと思った。

各アクティビティを繋ぐ間の添乗員・ガイドの役割が重要だと思った。現地へ行けば参加者は興味をもってその活動をするし、写真を撮りながら楽しむが、それは向こうの解釈で、向こうのやりたいことの範囲で終わってしまう。こちらのメッセージを伝えたい場合は、ガイドが、そこへ連れて行く意図や地域の思いを伝える必要があると思った。しかし、現場で活動しながら、ガイドの話を聴いてもらうのは難しい。話をするのはバスの中が一番有効だと感じた。

・有限会社アグリテック

地域の農家民泊やプログラムづくりを担当しているが、農家さんは特に外国人だからといって気張る必要は無く、いつも通りの農村の暮らしを見せてもらえばいいと思っている。しかし、言葉が通じずコミュニケーションが取りにくいと、不安な気持ちが生まれてしまい、受入側の満足度が低くなる可能性があると感じた。

・コロポックル

イチゴ狩りは楽しんでもらえて良かった。イチゴの取り方の説明をできるだけ分かりやすくする必要があったと思った。楽しく取ってもらいたいが、数の制限などは守ってほしい。

ケーキ作りは予想以上に喜んでもらえて良かった。

4.2 高知県四万十市、四万十町

(1) 実施概要

日程：平成26年10月15日（水）～17日（木）

旅行主催：太平洋トラベル

概要：昔ながらの川との付き合い。四万十川で水の恵みの里めぐり

日本を代表する清流四万十川。このツアーでは四万十の川の里を訪ね、農作業や川漁体験のほか、カヌーや自転車で川に寄り添う暮らしを体感する。農家民宿に宿泊し、地域の人との交流、四万十の水で育てられたお米、野菜、川の幸を味わう。

(2) 参加者及び同行者、受入れ者

国籍	年齢	性別	職業
アメリカ合衆国	53	Female	外国語講師
オーストラリア	34	Male	電気技術者／主夫
中国	23	Female	学生
中国	27	Male	学生
中国	27	Female	学生

企画支援・同行：

- ・山崎生氏（高知県観光振興部観光政策課企画監）
- ・秦泉寺哲氏（高知県観光振興部観光政策課）
- ・土居和博氏（高知県観光振興部地域観光課）
- ・神田修氏（四万十川財団）
- ・武市真実氏（四万十川財団）

現地プログラム（カヌー体験、サイクリング体験）：

- ・谷吉勇太氏（四万十楽舎）

通訳：坂本文子（通訳案内士）

進行：森高一（日本エコツーリズムセンター）

(3) プログラム及び概要

10月15日（水）

9：30 高知空港にて集合（2名をピックアップ）

10：00 JR高知駅にて集合（2名をピックアップ）

バスで四万十市へ移動、窪川道の駅で休憩の後、JR窪川駅で1名をピックアップ

12：20 農家民宿「おふくろ」着、高知県、四万十川財団職員と合流

昼食（地元産食材による食体験）

13：30 同おふくろにて農業体験、サツマイモの収穫と畑のガイド

14：15 おふくろ発

14：30 蔵元「無手無冠」着、蔵人による酒蔵案内、日本酒、栗焼酎の仕込みを学ぶ

- 16：20 同無手無冠発
- 17：20 四万十町の農家民宿「こんぴら」「百々世庵」着
古民家百々世庵での五右衛門風呂体験（15日が男性、16日が女性）
- 18：30 夕食（地元産食材による食体験）
こんぴらのご家族との懇談

10月16日（木）

- 8：00 朝食（地元産食材による食体験）
- 9：00 地域の神社「金毘羅宮」見学、地域の散策
- 10：15 こんぴら発
- 11：00 道の駅とおわ見学、地元産物の見学と買い物、スタッフから案内を受ける
- 11：30 道の駅発
- 12：30 農家レストラン「しゃえんじり」着
昼食（地元産食材による食体験）、店の方からのレクチャーを受ける
- 13：30 しゃえんじり発
- 14：00 四万十楽舎着
ガイドによるカヌー体験プログラム、四万十川をカヌーで下る
- 16：00 四万十楽舎戻り、着替え
- 16：30 四万十楽舎発
- 17：00 こんぴら着
- 18：00 夕食（地元産食材による食体験）

10月17日（金）

- 7：00 朝食（地元産食材による食体験）
- 8：00 こんぴらご家族との記念撮影
- 8：10 こんぴら発
- 8：30 半家沈下橋から西土佐・カヌー館までのサイクリングプログラム、四万十川と川沿いの集落をめぐり、川に寄り添った暮らしを訪ねる
- 11：20 西土佐発
- 12：50 中土佐町大正市場着
魚市場を訪ね、かつお薫焼きやおろすところを見学
昼食（地元産食材による食体験）
- 14：00 参加者同士の懇談、アンケート記入（中土佐で1名解散）
- 15：00 中土佐町発
- 16：00 JR高知駅で解散（2名）
- 16：30 高知空港で解散（2名）

(4)参加者アンケートから

1) このツアーであなたにとって「この場所で特別なもの」になったことはありますか？

- ・「こんぴら」(宿)が素敵だった。いつかまた家族を連れて休暇を過ごしに来たい。カヌー体験はわくわくして面白かった。英語の話せるフレンドリーなガイド、ユウタとタカがついてくれた。五右衛門風呂もとても珍しい体験だった。
- ・私が旅で一番楽しみなのは人とつながることなので、ツアーのオーガナイザーやリーダーたちと彼らの希望、目標、体験などについて話す機会が持てて良かった。また、地元の方々やそのライフスタイルに触れられたのも素晴らしいと思った。
- ・田舎の伝統的な家と、地元の方が出してくださった和食、特に焼き栗。
- ・民宿こんぴらの食事はすごく印象に残った。カヌー体験も楽しんだ。
- ・①サツマイモの農作業：都市に住む外国人にとっては、初めての体験なので、自分の手で収穫できるのがすばらしいと思った。
- ・②カヌー体験：四万十川のきれいさを感じて、日本の自然景観に驚いた。感動した。
- ・③宿泊所「こんぴら」：「和食」のおいしさよさを味わって、日本人の熱心さと穏やかさを感じた。素晴らしいと思った。

2) 今回訪ねた場所をお友達にお勧めしたいですか？もしそうなら、どのように紹介しますか？

- ・(はい) このツアーには本当にお勧めで家族や友人とまた訪れたいところがある。Facebook やブログで紹介したい。
- ・日本や外国の友達や家族に絶対に勧める Facebook の写真や口コミに興味を持ってくれるだろう。
- ・四万十で撮った写真やビデオを友人たちに見せてどんなに素晴らしいところだったかを伝えたい。
- ・(はい) 四万十のことを友達に紹介したい。川と山があって、地元の農産品で味わって、農作業を体験して、昔の雰囲気の家泊まって、体も精神的にも十分リラックスできると思う。
- ・このツアーの間、写真をいっぱい撮り、インターネットにアップロードした。たくさんのコメントをもらった。「ここはどこですか？」「食べ物はおいしいですか？」とかいろいろな質問がきた。これらの質問について、写真を一枚一枚説明しながら「ツアー日記」を書いて、インターネットで友達に紹介したいと思う。

3) この地域をまわって、何かほかに体験したかったことはありますか？

- ・酒蔵見学は言葉での説明だけでなく、実際に工程を見せてくれたら良かった。
- ・台風のせいで川えび漁ができなかったのも残念だ。
- ・民宿、地元食材、神社、祭りなどをもっと体験してみたい。訪れた酒蔵のような、地元の産物と新しいアイデアを融合させて外部へアピールする製品(人々がシェアしたくなるような)を作っている企業をもっと訪ねたい。
- ・もしできるなら、久礼大正町市場の近くの海でダイビングがしたい。
- ・台風のため、川漁はできなかったもので、今度機会があれば、一度体験してみたい。栗拾いなども。
- ・チャンスがあればもう一度来て、川漁体験をやってみたいと思う。

4) このツアーで不自由だったことがあれば、それはなんでしたか？提供されれば良いと思われるサービスや、必要ないと思われる要素があれば教えてください。

- ・通訳さんがいてくださったのは素晴らしかった。
- ・トイレに手洗いせっけんがないところがあった。
- ・酒蔵見学は説明が多すぎだったので、工程をもっとたくさん見られれば良い。
- ・日本以外の国から来る人々は、たとえ集団であっても学校の生徒のように扱われることに慣れていない。その文化の違いを通訳が調整できるとより良くなると思った。
- ・全てが心地よく、配慮が行き届いていた。一点だけ、カヌー体験の前にシャワーが浴びられることを知らせておいてほしかった。
- ・必要品の準備はちゃんと確認をしてほしかった。使わなかったものもけっこうある。山道が多くて、乗り物酔い止めがあればよかった。
- ・宿泊場所はきれいで生活しやすかったが、夜のおしゃべりやお酒なども別々で残念だった。
- ・交通が不便だと思う。景色もいいし、食べ物もおいしい。いろんな体験もあるが、交通手段に困っているお客様がいっぱいいると思う。バスか電車などの交通手段をもっといかせばいいと信じている。
- ・民宿にはwi-fiがあればいいなと思う。

5) 旅をするとき、どのように情報を集めますか？出発前と旅行中の主な情報収集の手段を具体的に教えてください。

- ・はじめはインターネット検索。そのあとに知り合いにアドバイスを求める。
- ・SNS、口コミ、インターネット検索。
- ・普段はスマートフォンを使ってグーグルマップで今いる場所とこれから行くところをチェック。また、これから訪れる場所に関連した記述のあるブログを読むこともある。
- ・インターネットと旅行社で情報を取得する。特に宿泊、食事は気になる。
- ・インターネットで事前にいろいろ調べる。手に入れた資料、情報を分析、比較してから、ツアーの内容、スケジュール、価格などをいろいろと検討し、一番自分に合うツアーを選ぶ。自分が好きなツアーを選んだら、ツアーのはじめから終わりまで、ずっと楽しい雰囲気にはいると思うので、すばらしい旅行になると信じている。

6) このツアーの印象はいかがでしたか？地元の方々になにかメッセージはありますか？

- ・四万十は美しい地域で人々がとても歓迎してくれた。おかげでとても楽しい滞在になった。食べ物が素晴らしかった。
- ・このツアーに参加できて本当に幸運だった。
- ・全ての体験ーリーダーシップ、活動、農家泊、食べ物ーが完璧だった！人々の生活とおもてなしの質の高さに感銘を受けた。また家族、友人とともに訪れたい。
- ・この素晴らしい機会を与えてくださって本当にありがとうございます！
- ・期待をはるかに上回る素晴らしさだった。山や川のそばにいて、母なる大地の恵みを味わわせていただいて。こんぴらのおばちゃん、おじちゃんに「大変お世話になりました！またお会いしたい！」と伝えたい。
- ・今度のツアーで、四万十の皆さんの情熱を感じて、四万十川の恵みをいただいて、とてもうれしかった。また行きたい。

・楽しくて、素晴らしかった。必ず、友達に紹介しようと思う。

「日本の伝統的なものを感じたければ、おいしいお魚が食べたいければ、日本最後の清流をみたければ、四万十川に行こう。」

(5) 主な抽出事項

○四万十の自然の恵み、農産物、そして地域の皆さんの普通の暮らしに魅力を感じている
アンケートからも、何より地元の食べもの、それを提供してくれる農家や宿の人との交流に満足感が高いことがうかがえる。参加者からは、地域の方の普段の暮らし方に接することの魅力をあげる声があり、特別に設えたというものより、普段の暮らしを効果的に見せ、交流体験できる内容が好まれと感じられた。

○特に食体験は満足度が高く、それにつながる農作業、漁、市場などでの流通、加工の現場は人気が高い。今回のツアーで食にこだわりがあることに加え、四万十地域の食べ物がとても美味しく、食への満足度が高い。また単に料理されたものを食するのではなく、その素材の生産、収穫、加工とつながりを持って示せたことも好評化につながったと見られる。参加者は誰がどこで作ったものなのか、それを誰が調理したものか、またそれは地域の伝統的なものかなど関心が高く、ほかにはない価値を見い出していた。

○自転車やカヌーなど、ゆっくりと地域をまわる体験が評価された
今回のツアーでは、移動距離が長く基本はバス移動を取ったが、カヌーでの川下り、自転車でのツーリングと、比較的ゆっくりしたスピードで地域を体験してもらった。2日目の午前中の徒歩による地域の散策も含め、身体感覚による地域の体感効果的といえる。自動車移動だけでなく、徒歩、自転車、カヌーなどのゆっくりした移動に着目したい。

○ツアープログラムでは、文化の違いの理解、配慮が必要
アンケートから、「たとえ集団であっても学校の生徒のように扱われることに慣れていません」との指摘があった。文化の違いは様々なところで配慮される必要があるが、特に集団行動が多いツアーでは、その案内のしかた、解説や進行について留意すべきである。今回は食品のアレルギーのみ事前に確認をとったが、宗教上の配慮や野菜食か否かなど細かに対応すべきものがほかにもあった。

○プログラム以外の時間の過ごし方にも、配慮すべき点がある
食事の後の時間の活用や、プログラムの中の時間の過ごし方など、合間の時間の使い方にも工夫ができるとよい。めいっぱいプログラムを詰め込むことは、事前に避けるよう配慮した。フリーの時間の活かし方として、みなさんと集まる場やおしゃべりをする時間の用意、お風呂やくつろげる場と時間の作り方も重要な要素となる。

○事前の情報提供や当日の案内で、スケジュール、準備物、留意事項は適切に提示する必要がある
当然ながら、ツアーやプログラムについての事前情報は必要である。時間や内容、準備物など必要事項

は適切に伝わるよう徹底したい。参加者からは募集時や広報では情報過多でない方が良いとの指摘ももらっており、参加が決まったのちに詳細情報を伝えることが望ましい。

○旅行者の情報入手先はインターネットによるものが多く、フェイスブックなど SNS の力が大きい。個人の発信から拡散する傾向がある

今回のツアー中またツアー後も、参加者は自分のスマートフォンなどでさかんに画像や感想をフェイスブックやブログにアップしていた。旅行情報や現地の情報はインターネットを通じてまた口コミによって得ている実情もわかり、マスの広告以上に SNS など個人の情報発信による広報が重視される。また参加者から日本語のサイトでは正確に理解できないこともあり、少なくとも英語によるサイト整備が必要との意見をもらっている。現地での対応は、地域の方々が無理に英語を使わなくてもいいが、情報発信としては英語が求められる。

○次回以降訪れるためには、アクセスの不便さの解消、英語によるインターネットの情報の整備が必要
今回はチャーターバスでの移動としたが、次回訪れるにはどうしてもアクセスに不安があるとの意見があった。公共交通機関が少なく、またその情報すらなかなか英語で得られないため、行き方がわから意図の指摘がある。インフラにあたることでもあり、一気に解決できるのものではないが、期間限定としても最寄交通機関からのバス運行やその情報発信の徹底、レンタカーによる誘致や交通表示の多言語化など、交通アクセスについては検討すべき整備が多い。

(6) 活動写真



おふくろでの食体験



おふくろでの農体験



おふくろでの農体験



無手無冠の酒蔵見学



無手無冠の酒蔵見学



無手無冠の酒蔵見学



こんぴらのご主人と



こんぴらのリビングで



こんぴらの五右衛門風呂



こんぴらでの家族の皆さんと参加者



収穫したいもをいろいろで



しゃえんじり（農家レストラン）の畑



金毘羅神社へ



四万十川のプログラムへ向かう



カヌー体験



サイクリングで地域をまわる



サイクリングで地域をまわる



じゃえんじりでの食解説



久礼の市場見学



久礼でのカツオのたたきづくり見学



久礼の市場見学

(7) 現地受入先による所感

・ツアー自体の感想・評価

モニターが高知を全く知らない訳ではなかったのですが、もっと淡々とプログラムが進んでいくと予想していたが、想像以上の反応があった。もちろん外国人の人特有のジェスチャーの大きさもあるのだろうが、我々としてはそこが一番強く印象に残った。今回はモニターツアーということで少し予定を詰め込んだ感があるが、やはりもう少し余裕を持ったスケジュールの方がいいのではないかとも思った。

・今後に活かせるようなポイント

特に構えることなく、普段通りでいいということ。無理なおもてなしをするよりも自然体でいいのだと感じた。自転車やカヌーといったアクティビティには以前より手応えを感じていて、それを再確認できるいい機会となった。また、国内外を問わず、観光の一番の要は人間だということも再認識できた。

・外国人の受入にあたっての地域の動きや、今後むけての計画や構想など

すみずみツーリズムとしては、特に外国人観光客の増加をねらってという動きには今のところなっていない。今回の事業とは直接関係ないが、厚労省から指導のあった帳簿（旅券番号や前日、翌日の予定の把握など）の型（4カ国語対応）を作成し、希望する会員に分ける予定である。

- ・外国人は観光情報を主にスマートフォンで探す。そのため、スマートフォンに対応したウェブサイトで情報発信する必要がある（参加者からの意見）

- ・直前まで、ツアーの参加人数が集まらなかった。今後モニターツアーの際には、参加募集期間の延長や、募集方法を改良する必要がある。

4.3 山梨県南アルプス市

(1) 実施概要

日 時：平成 26 年 11 月 22（土）. 23 日（日）

場 所：山梨県南アルプス市 Cottage The Woodvillage lake Ina 他

参加費：無料

定 員：10 名

概 要：

(2) 参加者(9 名)

国籍	年齢	性別	職業
台湾	36	女	会社員
台湾	29	女	翻訳業
アメリカ合衆国	45	女	ライター
ペルー	69	女	無職
ペルー	49	女	会社員
ペルー	50	女	パート
フィリピン	38	女	外国語指導助手
フィリピン	34	女	システム管理者
フィリピン	26	女	学生


(3) ツアー概要


「水の恵み旅」モニターツアープログラム

○プログラムの概要

南アルプスのふもとに広がる御勅使川扇状地は、昔から幾多の水害に見舞われると共に、「月夜でも焼ける」と言われた大干ばつ地帯でした。しかし、先達たちの知恵と努力のお陰で、今では日本有数な果樹地帯として生まれ変わりました。今回は、武田信玄を始めとする先人たちが築き上げてきた水の歴史と文化を存分に学んでいただくと共に、美味しい果物と富士山や南アルプスの美しい景色を堪能され、更に豊穰の喜びを感謝する高尾穂見神社の夜祭にも参加していただき、ユネスコエコパークに登録された南アルプス山麓に広がる農業を基軸とした生活文化の豊かさを味わう『水の恵み旅』を提供いたします。

◇1日目 11月22日(土)

会場	内容	写真
甲府駅（北口） 11:00 集合・出発	<ul style="list-style-type: none"> ・車 2 台（8 人乗り ツアー参加者 1 2 名、通訳 2 名乗車） ・車中 「水の恵み旅」の概要説明 	
水宮神社 11:45 到着 12:30 出発	<ul style="list-style-type: none"> ○お参り（神社殿に入る前にツアー参加者全員で 2 礼 2 拍手 1 礼） ・神事（志村宮司 進行は桜本氏子総代長） ・献茶（篠原裏千家山梨支部幹事長） 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・拝服(お菓子等をいただく)。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・桃花橋(ループ橋)経由 ・あんぼ柿つるし風景 	<ul style="list-style-type: none"> ・ループ橋で市の風景、富士山を眺望 ・曲輪田の農家のあんぼ柿つるしを見学しながら進行。 	
ほたるみ館 13:00 到着	○昼食(天気が良ければ南側芝生広場にて)・素材は全て地元素材使用(地産地消)	
ほたるみ館 14:00 スタート 15:40 出発	○あんぼ柿づくり体験 皮むき(一人4個)紐吊るし→燻蒸までの行程を体験(現品はお土産) ・試食用のあんぼ柿は一人一個程度用意。	
ふるさと文化伝承館 16:45 到着 17:45 出発	○水の歴史・文化等学習	
<ul style="list-style-type: none"> ・ウッドビレッジ伊奈ヶ湖 18:15 到着 (宿泊所) 19:00 出発	○チェックイン(しばらく休憩) ・ハッピー着用(夜祭用)	
穂見神社 19:30 合流 19:45 到着 20:30 祈祷 21:00 出発	○穂見神社夜祭提灯行列へ合流 ○穂見神社夜祭体験 ・神社概要説明・祈祷・餅まき・神楽等見学・夜店体験	
ウッドビレッジ伊奈ヶ湖(宿泊所) 21:30 到着	○交流会(手前のコテージにて) ・一日目の感想等を聞きながら自由な雰囲気で開催。(1時間くらいで終了)	

◇2日目 11月23日(日)

会場	内容	写真
・ウッドビレッジ伊奈ヶ湖 レストラン（ミッシェル） 7:30・展望台	○朝食(多種類フルーツ付き) ・食後、歩いて展望台に。眼下に広がる甲府盆地風景の眺望。	
ウッドビレッジ伊奈ヶ湖 9:00 出発(宿泊所)	○車2台(8人乗り ツアー参加者12名、通訳2名乗車)	
氷室神社 9:10 到着 9:40 出発	○お参り(神社殿に入る前にツアー参加者全員で2礼2拍手1礼) ・概要説明(秋山氏子総代から説明) ・1200年大杉参拝→復活の水ビン詰め ＊若いツアー参加者は階段も選択肢。	
・林道通過	・途中南アルプス・富士山のビューポイント通過。	
池の茶屋駐車場 10:15 到着	○池の茶屋駐車場から展望台を目指して徒歩で出発。	
展望台(トレッキングコース) 10:45 到着 11:15 出発	○展望台 ・八ヶ岳、鳳凰三山、甲斐駒ヶ岳、北岳眺望。 ・ティータイム(タルト、コーヒー等)	
池の茶屋駐車場 11:45 到着	○池の茶屋駐車場からほたるみ館へ。	
ほたるみ館 12:15 到着 13:00 出発	○昼食(ほうとう食べ体験) ・味噌、野菜入れ体験。 ・手打ち体験。	
治水・利水施設(四ヶまち堰頭首工等) 13:20 到着 14:55 出発	○利水施設・治水史跡見学 ・四ヶまち堰頭首工・石積出(1番堤) ・枡形堤防・将棋頭 ・調整池・スプリンクラー見学 ・伊藤(元有野区長)概要説明。 ・加藤(釜無川右岸連合所長)概要説明。	 
矢崎家 15:00 到着 15:40 出発	○ティータイム(古民家の大部屋でお茶を飲みながら2日間のモニターツアーのアンケート等を実施)。	

甲府駅(南口) 16:15 到着 16:30 解散	○甲府駅 ・最後に信玄公銅像の前で記念撮影。 ・解散	
---------------------------------	----------------------------------	--

(4) 参加者アンケートから

自由意見)

- ・アンケート用紙は英語だけでなく日本語・スペイン語に対応してほしい。
- ・スケジュールが詰まりすぎてせっかく自然のあるツアーなのだからゆっくりしたツアーがよい。
- ・体力はない方だが、だからと言って神社の階段は時間をかけても登りたかった。
- ・水を汲んだその場でコーヒーを飲みたかった。
- ・あっちこっち行きすぎて自分がどこにいるのかわからなかった。
- ・トレッキングかフードツアーか明らかにフォーカスすべき。
- ・トイレの配慮が細かくあってよかった。
- ・プログラム表が見やすかった。
- ・このツアーはいくらだったら参加するか？

30,000 円 1名

29,000 円 1名

25,000 円 1名

20,000 円 5名

15,000 円 1名

1) このツアーであなたにとって「この場所での特別なもの」になったことはありますか？

- ・古い物に興味は薄くあるので、矢崎さんの200年の歴史もあるお部屋に来ることができて非常に嬉しかった。
- ・一番のお気に入り、初日の水宮神社、氷室神社。そして夜のまつり。特に氷室神社、すごく高い場所なので、ふだん自分がいけない場所ですごく新鮮。そして「復活の水」もしもうちょっと説明すればもっといい。ほうとうが大好きなので、ゆっくり食べたかった。
- ・氷室神社訪問がとても気に入った。この経験により、日本文化が豊かだとわかった。神社に樹齢1200年の木があったことも驚いた。復活の水という素晴らしいものがあることもとても気に入った。
- ・樹齢1200年の木がとても気に入った。
- ・鷹尾のお祭りも餅まきと神楽舞があってとても日本的だった。
- ・なにもかもがとても特別だった。たった二日だったが日本の文化や生活についてたくさん学ぶことができた。このツアーに参加できて本当に幸せでした。
- ・水宮神社のお茶会
- ・氷室神社がお気に入りの場所だ。美しいロケーションであり、平和で喜びに満ちていた。秋山さんが素晴らしかった。木もすごかった。他に特別な場所と言えば、穂見神社の夜祭り。そしてほたるみ館。Aさんのことは決して忘れません、とても素敵でした。

- ・どのプログラムもとても大切だった。全てが興味深かった。
- ・初めての参加で、日本文化をより深く知ることができ、すべてがとても興味深かった。水の神様への敬意が印象的で、その存在を知らなかったので感心し、尊敬する。

2) 今回訪ねた場所をお友達におすすめしたいですか？もしそうなら、どのように紹介しますか？

- ・展望台でキレイな山を眺望しながら、寒い中あたたかいコーヒーを呑んで静かに自然と対話できるところが気に入った。
- ・2日間のツアー内容を振り返ってみると、すごく日本の心を表す内容だと思う。

アドバイスとして

- ・日本語学校と協力。外国籍の学生に来てもらうのが人気かも。そしてロコミひろがる
- ・せっかく200年住宅であれば、民宿やってみれば？
- ・夜は四季に合わせてイベントを行なう
- ・移動時間は、南アルプスの面白い歴史を語る。など。
- ・必ずすすめる。南アルプス市の豊かな文化と歴史について友人に伝えたいと思う。
- ・日本人の信仰と努力に、本物の、伝統的な日本の姿が見られることを伝えたい。
- ・はい、必ずすすめる!!! 山梨のなかではそこまで大きな市ではないけれど、提供できるものがたくさんある。ハイキング、お寺、お祭り、食べ物、歴史や文化など。
- ・そんなに混雑していないのでこの山梨の町は他のところとは違う雰囲気を感じられる。
- ・必ずすすめる。私が撮った写真を見せ、心に刻まれた思い出を語って。
- ・南アルプス市は驚くほど美しい景色、素晴らしい食べ物、あたたかな人々がいる山あいの村で、普段出会えないような日本の方々と共に貴重な体験が出来ることを伝えたい。
- ・このツアーに参加すると、古い時代の、また現代の日本人をよく理解する機会に恵まれる。そして友達を作ることもできる。

農家の方々が野菜や果物を生産し、それを(自分たちで?)食べているのが面白かった。

3) この地域をまわって、なにか他に体験したかったことはありますか？

- ・葡萄狩り、星観望
- ・①果物体験 (BBQ→夏) ②キャンプ③空④楓葉
- ・このツアーは申し分のない体験で、これ以上望むものはない。
- ・例えば、次のところへ移動する最中に説明やお楽しみがある等。
- ・ハイキングできるところや、公園、村の近く見たできれいな湖へ行きたかった。
- ・この旅で食べた全てのフルーツの栽培の農業体験を直にしてみたい。
- ・地元の温泉や酒蔵
- ・他にできるアウトドアの活動はあるか？地元の他の工芸品や伝統はあるか？
- ・自転車ツアー
- ・キャンプ
- ・今回の場所へのバスのアクセスはありますか？外国人は車のない人が多い。

- ・農家泊は可能？
- ・同じような宿泊場所で、2名（？）向けのところがありますか？

4) このツアーで不自由だったことがもしあれば、それはなんでしたか？提供されれば良いと思われるサービスや、必要ないと思われる要素があれば教えてください。

- ・できれば、水を提供してほしい。
- ・①時間的には急ぎの感じ→もうちょっとゆっくりで②水を用意するか、水を買う時間を設ける。
- ③ 祭りの前に休憩時間のとき、さきに弁当くばるも④祭りについての説明
- ・このツアーで体験できた全てがとても良かった。不都合なことはなかった。皆さん素敵でとても親切にしてくれた。
- ・鷹尾のお祭りや餅まき、神楽舞についてもっと説明をしてほしかった。
なぜやるの？なんのために？いつからやっているの？等
- ・江戸時代や明治時代とはいつだかわからない。何年前と言ってくれたほうがわかりやすかった。
- ・山の自然を楽しむ時間がもう少しあればよかった。
- ・予定や訪問先がたくさんあり、それは本当にありがたかったが、大きな木のある神社でもっとゆっくりできればよかった。
- ・なにもありません。
- ・全てが素晴らしく、足りないものはなかった。たまに物事の意味を知りたいと思うことがあった。すなわち、なぜキツネが餅をまくのか？女性の舞は何を意味するのか？ほうとうはなぜほうとうと呼ばれているのか。どのような意味なのか。
これは最上級の質のツアーだと思う。

5) 旅をするとき、どのように情報を集めますか？

出発前と旅行中の主な情報収集の手段を具体的に教えてください。

- ・ブログ、トリップアドバイザー
- ・ブログ（60%）、公式サイト（10%）、ガイドブック（30%）
- ・行く場所のウェブサイトをチェックし、インターネットでブログや情報を見る。交通手段、宿泊、費用を調べ、自分にちょうどよいかチェックする。ブログやウェブサイトで高く評価されていたら、行くのをためらわない。
- ・南アルプス市国際交流協会
- ・インターネット
- ・1、インターネット、2、その地域やその国に住んでいる人たちから情報をもらう。
- ・インターネット、友達の口コミ、iphone アプリ（ラーメンマップ、グーグルマップ）たまにツイッター
- ・日本にいる娘から。南アルプス市国際交流協会を通して。

6) このツアーの印象はいかがでしたか？地元の方々になにかメッセージはありますか？

・初めて神社でお払いを受けたこと、なかなか神社の室内に入れないので感動した。

・穂見神社夜祭

→今までいろんな祭りに行ったことがあるが、大体食べに行って、楽しんでいるだけだった。今回の様に、参加者として体験するのが初めてだったので、とてもうれしかった。

・このツアーは実に心に残る、素晴らしい体験だった。地元の方々は彼らの豊かな文化を紹介してくださった。外国人が日本に来るなら、この種のツアーに行くことを考えたらよいと思う。本当に楽しかった。地元の方々へ：ありがとうございました。皆さん素敵です。

・様々な習わし、伝統、食事、大切な場所の建造物などにたくさん触れることができ、とてもよいツアーだった。

・宿泊施設がとても良かった。時間が少なかったことをのぞけば、すべてがとてもよく企画されたツアーであった。皆さんとても優しくかった。スタッフの皆様、ありがとうございました。

・素晴らしい体験だった。このツアーを企画してくださった方々のご尽力とホスピタリティに心より感謝します。

・このようなツアーに参加するのは初めてでしたが、本当に素晴らしかった。いままでしてきた旅と同じぐらいの便利さ、快適さであった。ありがとうございました！

・素晴らしいツアーだった。ぜひまた訪れて、ほたるみ館で体験したり、ハイキングや農家を手伝ったりしたい。たくさんの事を学べ、とても感謝している。ここはとても特別な場所だ。

・全てのプログラムが素晴らしかった。この素敵なツアーに参加できたことをとても感謝し、嬉しく思っている。どうもありがとうございました、皆さん。

(5) 当日の様子



水宮神社に参拝



儀式とお茶を頂く



あんぽ柿



あんぽ柿づくりを体験



治水の歴史を学んだあと市長と記念撮影



夜祭



地元のお酒で交流会



お土産のおまもり



朝食には11種類のグレープ



宿泊したロッジ



長い参道を登り湧水をくむ



トレッキングの後は柿タルト



展望台で記念撮影



治水の現場をめぐる



ほうとうづくり体験



最後は古民家でまとめ

(6) 現地開催者より所感

1) 企画・運営

市では、下記をコンセプトにモニターツアーを企画した。

- ・グリーンツーリズムのキーコンテンツとして果樹や果実を打ち出す。
- ・穂見神社や高尾集落など歴史の深い山村文化を景観・暮らし・食体験から捉える。
- ・日本を代表する山岳地域である歴史の深い南アルプスの山麓であることを打ち出し、美しい山岳景観、水の恩恵、自然環境の豊かさを十分に活かす。
- ・その他、エコツーリズムコーディネーター研修時に受講者が出したコンセプトやコンテンツを活かす。

上記を元に、福井氏へ企画を指導いただいて、2日間のモニターツアーを組み立てた。11月上旬には、受入メンバーと共に、提灯行列コースを試験的に歩き、旅行者の歩けるコースかを確認した。

2) 受入後の反省

受入後、福井氏の指導のもと、メンバーで反省会を行った。参加者からの直接の意見もあったが、多くのメンバーがスケジュールについて、「プログラムを詰め込みすぎた」ことを挙げていた。アンケートからもプログラム内容自体には満足していただけたことはとても喜ばしい。各担当の企画・準備がなかったことがよかった。

今後は欧米の時間の使い方などのニーズにも対応し、プログラムを絞り込んで日程を組むことが大切であると確認した。

4.4 千葉県神崎町

(1) 実施概要

日程：平成 27 年 1 月 15 日（木） 天候：雨

主催：NPO 法人日本エコツーリズムセンター

旅行主催：有限会社リボン

現地対応：寺田本家、フジハン醤油、こうざき自然塾、月のとうふ店

(2) 参加者及び同行者、受入れ者

参加者：(11 名)

国籍	年齢	性別	職業
カナダ	33	女	企業内トレーナー、フードツアーライター
アメリカ合衆国	30	女	研究者
アメリカ合衆国	41	女	主婦
韓国	48	女	翻訳・通訳
韓国	45	女	外国語講師
中国	32	女	会社員
中国	45	女	会社員
中国	60	女	技師
中国	35	男	自営業
中国	33	女	主婦
中国	40	女	大学非常勤講師

添乗：壺岐健一郎、壺岐（リボン）

通訳：

現地受入：寺田優氏（寺田本家）、鈴木一司（こうざき自然塾）、

進行：森高一（日本エコツーリズムセンター）

(3) プログラム及び概要

8:00 新宿駅西口（工学院前）集合

8:15 出発（高速道で神崎へ）

車内で自己紹介、寺田本家と神崎を特集したテレビ番組のビデオを見る

10:15 寺田本家到着

○お蔵でガイドダンス。神崎の歴史と寺田本家について、当主の寺田優さんにうかがう

○酒蔵見学。蒸したお米を蔵人が仕込む様子を見学し、発酵中のタンク、元摺りの工程、麴室などを見学。酒造りの流れを見せていただく。寺田本家では蔵に自然にある菌をうまく生かしながら、自然の力で酒を仕込む酒造りを行っており、元摺りも木おけで手作業で行われる。当日は元摺り作業の日ではなかったが、職人による元摺り歌の披露をもらった。

12:10 ○お蔵にて、地元食材を使った食事とお酒の試飲。地元の大豆を使った豆腐、みそ、しょうゆ（午後の見学先）のほか地ものもの旬のものを味わう。

13:10 ○神崎神社と神崎町内のガイドツアー

寺田本家の仕込水の源となっている神崎神社へ移動し、神社の由来やご神木のなんじゃもんじ

ゃの木（酒の銘柄にもなっている）など、寺田優さんにご案内いただく。

○フジハン醤油でのしょうゆ工場見学

実物でしょうゆの製造工程を解説いただき、生しょうゆの味見も。

○こうざき自然塾での味噌づくり工房見学

こうざき自然塾は、神崎で作られた米、大豆、菜種によってみそや麴、菜種油などを生産する工房で、当日は麴づくりの作業中だった。代表の鈴木一司と奥さんに麴づくりをうかがいながら、甘酒と味噌や菜種油、もちの試食をさせていただき、神崎地域の農作物とその加工品についてお話をうかがった。

○月のとうふ店の見学

神崎の大豆と寺田本家と同じ井戸水でつくる豆腐が評判の豆腐店で、こうざき自然塾で作られる大豆のおいしさからこの地で開業された。店ではこうざき自然塾の産物やフジサキ醤油店の商品など地元こだわった商品も販売している。

○寺田本家に戻り、商品倉庫となっている蔵など見学。おみやげの購入など。

15:20 寺田本家出発（高速道で新宿へ）

車内でアンケート記入、

18:00 新宿到着、解散

(4)参加者アンケートから

1) このツアーであなたにとって「この場所での特別なもの」になったことはありますか？

- ・ 酒蔵ツアーが体験型で、個人的にとっても楽しかった。様々なタイプのお酒について学び、それからゆっくりと素晴らしいランチをいただけたことが特に良かった。また、職人さんたちに会えたこと、そして麴の部屋で歌われた歌も興味深かった。
- ・ 日本の食がどんなに多様に、伝統的に作られているかを見学し、味わうことができ、このツアーのすべてが特別だった。酒蔵は伝統的でオーガニックで特に良かった。酒蔵のご主人が地元を案内してくださったこと、奥さまが素敵な！ごはんをつくってくださったことにも感謝したい。
- ・ ①酒造りの様々な工程を体験、見学できたこと ②味噌造りの方とお話し、交流する機会をもてたこと。
- ・ このお仕事は文化、伝統、地域、そして自然の資源といかに結びついているかを知ることができた。
- ・ 酒蔵での見学、むし米からはっこう中のお酒も、できたお酒までいろんな味見ができて勉強になった。
- ・ 伝統的な方法で酒をつくる場所もしょう油をつくる場所も全て私にとって特別なことだった。
- ・ 伝統的なお酒づくりを生で感じる事ができたこと、昔からの自然な状態でのオーガニックな酒、しょうゆ、みそづくり、こうじなどが、とても印象深く感銘を受けた。
- ・ ①寺田本家でお昼を食べながら多種類のお酒を試飲できたこと
- ・ 甘酒とこうじみそが美味しかったこと及び作り方が簡単だと教えて頂いたこと。
- ・ ①働きながら楽しく歌をうたうこと ②素材をこだわり、おいし食事をいただくこと
- ・ 人々に対して、真摯な態度とやさしさ
- ・ 今回のツアーでは、農家で自分が作った料理を食べられる。原料もこの地域で取ったもの、新鮮さ

がとてもいい。また、保存料など入っていないみそは普段の生活で買うことができない。

- ・ 実際農家に訪問、自分の目で手作業を見て、素材本来の美味さを味わうこと。

2) 今回訪ねた場所をお友達におすすめしたいですか？もしそうなら、どのように紹介しますか？

- ・ (はい) このツアーの予約ができるウェブサイトがあればなお良い。行くなら少人数を強く勧めたい。そのほうがより個人的な体験ができて素晴らしいと思う。
- ・ (はい) 他とは違う、手仕事の料理にまつわる体験ができるものとして紹介する。
- ・ (はい) 写真を見せ、ウェブのリンクを送って薦めたい。そして今日の「物語」をインスタグラムやブログなどで紹介したい。
- ・ (はい) 酒蔵を見学できるところが魅力。
- ・ (はい) 歴史のある町、神社、1300年になる木、300年前からつづく寺田本家、
- ・ (はい) 町から出たもので、お酒をつくり、しょうゆをつくる。
- ・ (はい) 体にも良く、見に行くと心にも良くなる地域だと紹介したい。
- ・ (はい) 昔からのものづくりやお酒好きな友だちにぜひ勧めたいと思った。
- ・ (はい) 中国の友人の Wechat グループで今回訪れた地域の人々の優しさ、素朴なところ、食べ物、お酒を紹介したい。
- ・ (はい) すばらしい地方の人々の生き方。(みそをつくる老夫婦)
- ・ (はい) 日本酒の製造過程、実物が見られる。特に今回の寺田本家はほとんど人間の手造りである。機械ではなく、このような日本伝統かつ手作りであることを紹介したい。
- ・ (はい) 日本の文化としてお酒の手造りを見学できると紹介したい。

3) この地域をまわって、なにか他に体験したかったことはありますか？

- ・ すべてが期待を上回るものだった。
- ・ 短時間の料理デモンストレーションなど、例えば野菜スティックにはどのように味噌が使えるか、など。
- ・ 味噌造りの方が茶の作り方を説明してくれたのがとても面白かった。この体験をもとに、家族や友人が東京に来た時や今度私がカナダに帰った時にこの茶をふるまって神崎の話をしようと思うとワクワクする。
- ・ とうふ造りも見学したい。
- ・ せっかくのこうじ関連の旅だったのでみそづくりなどの体験や見学ができたならさらによかった。
- ・ せっかく来たので他にもいろいろ。たとえば温泉があったら温泉も体験したい。
- ・ とともに、手作業を経験してみたかった。

4) このツアーで不自由だったことがもしあれば、それはなんでしたか？提供されれば良いと思われるサービスや、必要ないと思われる要素があれば教えて下さい。

- ・ 不都合なことはなにもなかった。
- ・ このツアーを見つけて予約をするのだけが大変だった。
- ・ すべてが素晴らしかった！ただし、このツアーのすべての情報 - お店、オペレーター、エコツアー

ズムなど - を書いた書類などをいただければ嬉しかった。そうすればホームページを見に行ったり、住所や電話などの情報がわかったり、フェイスブックでフォローしたりすることができる。

- ・ お酒の発酵の過程の味見はとても貴重な体験だったが、小さなお酒用の紙コップの準備があればさらによかっただろう。
- ・ 不自由なし。スタッフ達に感謝する。
- ・ あいにく雨が降って移動に少し不便を感じた。
- ・ 日本酒の製造過程に解説図やパンフレットがあればもっと分かりやすかった。
- ・ 多人数と一緒に見学する中、早く動き出さないと 列の後に立ったり、見づらいところがある。試飲や試食などは、人数の気配りが必要。

5) 旅をするとき、どのように情報を集めますか？出発前と旅行中の主な情報収集の手段を具体的に教えてください。

- ・ 旅行ガイド、旅行サイト、友達に聞く、オンラインレビュー。
- ・ ①グーグル検索 - トリップアドバイザー、ボヤジン（注・現地の人と交流できるユニークなツアーを予約できるサイト）。ボヤジンのようなインターネット会社がレビューやツアーの出版物を出して情報を得られるようにしてほしいと思います。②旅行ガイド本（ロンリープラネット）③ロコミ
- ・ インターネット検索、SNS上の写真、オンラインガイド（japan-guide.com）、ロコミ。
- ・ ネット上のロコミをチェック。
- ・ インターネット検索。中でおロコミ情報が重要。
- ・ 出発前：旅関連のブログなどを参考／旅行中：スマートフォンで情報検索。
- ・ ネット検索で、地域の観光案内
- ・ 個人のFacebookなどを参考に。
- ・ ネット検索で情報収集。
- ・ 基本ネット検索。あと当地の地図が必要。
- ・ インターネット検索で、Q&A やブログを読んだり、
- ・ 友だちの経験を尋ねる。

6) このツアーの印象はいかがでしたか？地元の方々になにかメッセージはありますか？

- ・ みなさんの日常を見られ、人々が本当に親切だと感じた。皆さんが自分たちの仕事に込めている喜びを感じた。皆さんと触れあい、お仕事を間近で見ることができて本当に嬉しい。
- ・ 手仕事に対する深い愛をもった、素晴らしく才のある皆さんだった。
- ・ 実に特別で、他では体験できないものだと思った！ツアーで皆さんと共有できたおもてなしと知識は本当に価値があり、また心あたったかいものであった。ありがとう！
- ・ おいしいものを育てる地域の皆さんの元気な姿をみて、こちらも元気をもらった。ありがとうございます。
- ・ 思った以上にいろいろな勉強ができて、とても楽しかった。また地域の皆さんはとても親切で、ご自分の町に対する愛情も強いのが分かった。ありがとうございました。
- ・ 今日、雨で町並など景観を楽しむことはできなかったのですがとても残念だったが、普段出来ない貴重

な体験と美味しいものをいただいたりし、とてもよかった。自然に戻ることを第一に考え、オーガニックな素材、伝統的な作り無添加などで手をかけて食の安全を守ろうとする努力をこれからもずっと続けて下さい。こちらからも応援していきたいと思う。

- ・ 美味しい食べ物とお酒を頂いた。ありがとうございました。
- ・ 家族の団結と責任感を感じられた。日本の伝統文化をまもる精神に感心する。そして、ご馳走していただきまして、ありがとうございます。
- ・ 楽しかった。初めてお酒製造工場の見学はとても面白かった。街全体を「発酵の里」というアピールポイントを出してとても覚えやすくていいと思う。
- ・ 日本の文化を大事して、世界の国々の人々にお伝えするのがとても責任があって大切なお仕事である、ぜひこれからも、本来の姿を保って、そのままに伝えてほしい。
- ・ 今回のようなツアーは若い人よりは、私たちのように家族がいる外国人や中長年の人に向いていると思った。「もう一度訪れる、商品を買う、町の人とふれあう」を自分だけではなく家族や知人などと一緒にできるのではないかと思う。

(5) 主な抽出ポイント

- 昔ながらの伝統的手法で食品を作ることへの高い関心
- 地元の素材を活かしていること、オーガニックであること、手作りであること、無添加であることの高い評価
- 実際の製造工程を見られ、それを食べられることの満足感
- 大人数よりも少人数で体験することに価値を見ている
- 見る以上に体験できるプログラムの希求
- パンフレットや配布物（外国語による）の必要性
- 実際にモノが購入できることのニーズと喜び
- 情報収集手段はインターネットが強く、ブログ、フェイスブックなど個人による情報を重視
- 地域の人とのコミュニケーション、地域のおいしいものが何より高いポイント

(6) 活動写真



お蔵でガイダンス



酒蔵見学



元摺りの工程



麹室での解説





地元食材の食体験



フジハン醤油見学



こうざき自然塾で代表の鈴木さんより



奥さんより味噌の試食



寺田本家の蔵前で参加者

(7) 現地受入先による所感（寺田本家）

1) 企画内容について

今回、リボンさんとのご縁で外国の方向けのツアーにご協力させていただきました。
はじめてのことで経験がなかったため、みなさまが望まれることとご案内の内容はマッチしていたのかどうかと考えておりましたが、アンケートの内容を拝見して少し安心いたしました。
当日は神崎町内の農家・こうざき自然塾さんとフジハン醤油さんにご協力いただき、あいにくの雨模様の中でしたが、思ったよりスムーズにご案内ができたかと思えます。

2) 現状

寺田本家は少人数で昔ながらの酒造りを行っております。そのため施設面や人員面などまだ外国の方々を観光で受け入れるのは難しいというのが実状でございます。

蔵内は水を使うところも多く、通路は広くありません。お土産をお買いいただくにも事務所の一角で対応しており、お客様を迎える状況とは言い難いところです。

こうざき自然塾さん、フジハン醤油さんも生業を行いながらの対応となりますので時季やご参加いただく人数は限られてきます。

また町内には飲食店が少なく、“発酵の里こうざき”の発酵食品や農産物等を召し上がっていただける飲食店はあまりありません。

町中を散策していただく場合、幹線道路には歩道が狭かったり、なかったりととても危ない状況です。車でお越しの場合は駐車場に困ってしまうのが現状です。

3) 今後の見通し

神崎町周辺では、2015年4月29日に道の駅“発酵の里こうざき”がオープン、圏央道も神崎IC～大栄ICが2015年5月までには開通の見通しとなりました。

このことにより神崎町周辺の人々の動きも大きく変わってくるのが予想されます。

- ・見学日・参加人数を限定して安心安全で楽しんでいただける見学の取組。
お客様お迎えする体制づくり。
- ・町の公共施設の活用（わくわく西の城）して体験型のツアー企画の可能性。

- ・ 寺田本家の隣接地建物のリノベーション、飲食店等に活用を計画中。

神崎町の可能性を広げるお手伝いとして、できるところから少しずつ対応していきたいと思っております。

4.5 京都府美山町

(1) 実施概要

日程：平成 27 年 2 月 7・8 日(土・日)

参加費：1 名 6,500 円

現地対応：田歌舎、野生動物復帰計画

概要：京都の最奥で、日本伝統の茅葺き屋根が残る集落を歩き、山里で受け継がれてきた冬の暮らし方を体験します。地元猟師の手ほどきで、狩猟ととれた獲物の解体、調理など、山の恵みジビエを余すところなく味わい、自然と共に暮らす知恵に触れます。

(2) 参加者

*定員 10 名に対し、17 名の応募があったため、抽選で 10 名を決定した。連絡後、2 月 4 日すぎに 1 名がツアー直前の怪我により、2 名がツアー中の予定変更を希望したのちキャンセルを申し出た。次点のツアー希望者に連絡したが、直前のため叶わず、7 名のままツアーを行った。

国籍	年齢	性別	職業
中国	25	女	学生
インドネシア	24	女	学生
ブラジル/ロシア	27	女	大学院生
ブラジル	33	男	パーソナルトレーナー
アメリカ合衆国	24	男	外国語指導助手
アメリカ合衆国	25	女	英語教師
メキシコ	26	女	大学院生

(3) プログラム概要

【2月7日】

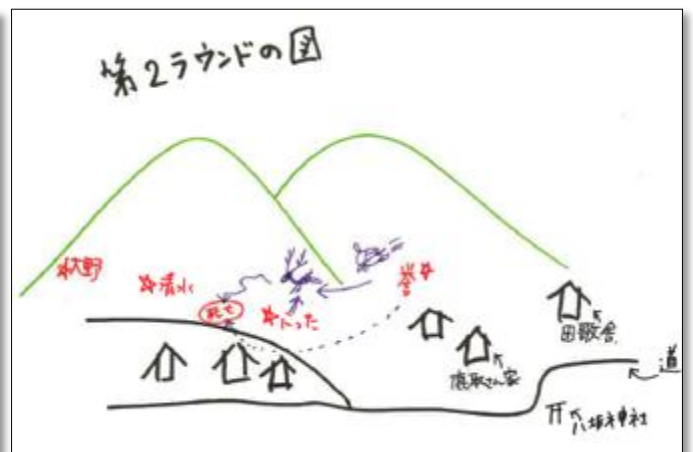
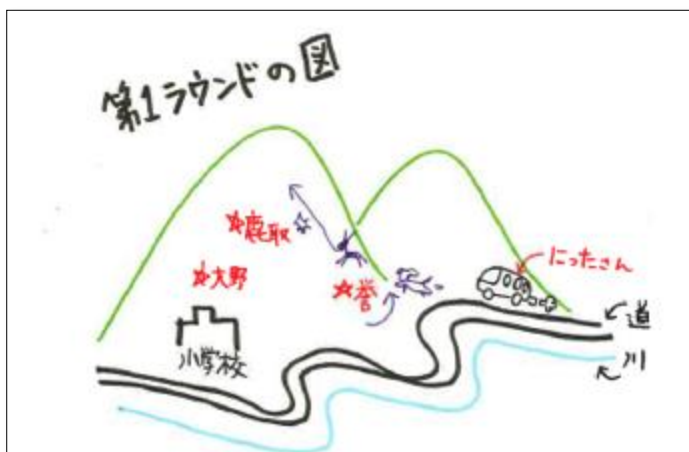
時間	場所	内容
8:30	京都駅八条口	スタッフ集合(バス乗り場)
9:00		参加者集合時間
9:10		全員集合・出発
9:20	車内	アナウンス(主にスケジュールの確認)
10:08	ウッディー京北	トイレ休憩(着)
10:16		トイレ休憩(発)
11:00	田歌舎	会場到着
11:08		オリエンテーション 【田歌舎の紹介(施設を回る)】 永続的な自給自足なライフスタイルを目指して日々奮闘をして いる。1 ha の農業、狩猟や採集を 1 年を通じて行い、衣食住の衣以外とプラスして遊をたした遊食住を提供している。 ・建物は地元の大工さんに教わりながら自分達で建設 ・暖房は薪ストーブ。材は冬前に作っておいたが終わりそう。 ・カモを 80 羽飼っている。合ガモ農法で活躍するほか、

		<p>卵と食肉になる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畑は雪の中だが、雪の中にニンジン・白菜・ゴボウなどを保存してある。 ・手作りビニールハウスでも野菜は育てている。 <p>春先は稲の苗を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近くの養鶏場から古くなった鶏(1.3歳)を買い、肉にして食べる。 ・ヤギは芝刈り機として夏場活躍し、1日1.5ℓとれる乳はチーズになる。 ・獣害被害(シカ・サル・イノシシ)が深刻
11:45	宿泊棟	<p>【スライドショー】</p> <p>今の季節では見ることができない、夏場のラフティングやキノコ採り、建設途中の様子など紹介。</p>
12:00	宿泊棟	お昼御飯(持参) 男性宿泊棟(200m離れた施設)チェックイン
13:00	田歌舎駐車場	<p>狩猟体験スタート</p> <p>【猟師さんの紹介】</p> <p>鹿取さん(女性猟師)/新田さん(新米猟師)/大野さん(ベテラン)/清水さん(長老猟師)</p> <p>【狩猟をする理由説明】</p> <p>戦時中、軍服を作る為に多くの野生動物を狩った時があり、また、オオカミを絶滅においやってしまった。戦後、狩りすぎた野生動物を保護する動きがおこったが、オオカミの絶滅やハンター・野良犬の減少により数が増えすぎてしまった。</p> <p>数が増えすぎた今、山は丸裸になり、私たちの農作物への被害も深刻となってしまった。山を守る為、自分達の生活の為に私たちは野生動物を狩ります。</p> <p>【狩猟の仕方】</p> <p>猟犬で追い立て、高待ち・中待ち・下待ちと呼ばれる場所でそれぞれ待機して獲物を待ちます。</p>
13:20	八坂神社	神様にご挨拶
13:40	知井小学校	<p>第1ラウンド</p> <p>【鹿取班】 中待ちにあたる小学校のグラウンドの上の林で待機。 シカが横切り発砲するものの、はずす。</p> <p>【誉班】 猟犬2頭を放ち、犬の行動や仲間の無線を待つ。「上に行った」との報告を受け、一緒に移動するものの、別の方向に行ってしまった模様。その後、犬が小鹿を単独で仕留め(半殺し)、回収して戻ってくる。</p>

15:30		終了・移動 小鹿のとどめとはらわた出し
15:45	田歌地区	第2ラウンド 【新田班】 猟犬が追い立てた大きい雄鹿の腹部に見事命中するも、致命傷にならず。 【大野班】 しばらく待機するも、シカが待機場よりも手前に出そうとのことで移動。誉さんが雄鹿の角をつかみ格闘中のところで到着。ナイフでとどめを刺したところで一緒に道路まで引きづりだした。
16:05	田歌舎	到着・雄鹿のはらわた出し
16:17		休憩/入浴 希望者は入浴施設(美山自然文化村 河鹿荘)、他は田歌舎のシャワールームを利用
19:00	田歌舎食事棟	夕食
22:30		終了

【2月8日】

8:00	田歌舎食事棟	朝食
9:10	田歌舎	解体
11:35	田歌舎食事棟	アンケート記入
11:50		振り返り(感想の共有)
12:00		お昼
13:10		出発
13:20	かやぶきの里	到着・自由時間
14:30		出発
16:53	京都駅八条口	解散



(4) 参加者アンケートから

1) このツアーであなたにとって「この場所での特別なもの」になったことはありますか？

- ・ 鹿の解体体験がとても面白かった。
- ・ 鹿が本来居るべき自然環境の中にいるところが見られてとてもよかった。とても寒かったが、狩猟体験はとてもワクワクして楽しかった。
- ・ 初めて体験がたくさんあった。中でも地元の方と狩猟に行ったことで、その考え方や人々が周辺の自然とどうバランスをとるかが理解できた。私はここでの生き方そのものが特別だと思う。
- ・ 言うのは難しい。鹿の狩猟は特別だったが、その解体は私にとって本当に「特別な」なことだった。
- ・ 食事が素晴らしかった。
- ・ はい！鹿の解体、皮はぎ、藤原さんが鹿を私の目の前で屠殺するのを見たこと・・・そして収穫したてのニンジンを食べたこと！
- ・ 森の中でハンターと一緒にシカを狩ること。

2) 今回訪ねた場所をお友達におすすめしたいですか？もしそうなら、どのように紹介しますか？

- ・ (はい) この地域のおいしい食べ物と美しい自然のことを教えてあげたい。
- ・ (はい) 自然体験、おいしい食事、地元の方々と対話など素晴らしい体験ができる所と。
- ・ (はい) 友人たちに話し、ソーシャルメディアに書きたいと思います。
- ・ (はい) 山での暮らしや狩猟について学びたい人にとって、この旅は素晴らしいと伝えたい。しかし、血や内臓を目にするのでちょっと「強烈」かもしれないと警告もするつもりだ。(悪いものではないが、すべての人に良いとは限らないので)。
- ・ このような本当に伝統的な場所での生活を体験したい人に薦めたい。
- ・ (はい) この地域は人里離れた平和で美しいロケーションで、絵のように美しい山々に囲まれている。人々がどのように協力して食物を育て、生計をたっているか、同時に自然を守り、持続可能な方法でそれを活用しているかを目にすることができ、とても興味深かった。
- ・ 田舎を友人に薦めたい。狩猟体験も鹿の解体体験も友人に薦めたい。

3) この地域をまわって、なにか他に体験したかったことはありますか？

- ・ 夏にラフティングと釣り。
- ・ もっと山奥まで行ってみたい。ハイキングが好きなので。
- ・ 夏にカヤックやラフティングをしてみたい。この地域の桜の季節も見たい。
- ・ 野生のイノシシも見てみたい。面白そうだから山の中でハイキングもしてみたい！
- ・ 狩猟ワナをしかける所。そのワナに獲物を取りに行くところが見てみたい。
- ・ 野菜や果物の収穫も面白そう。釣り、山羊の乳しぼり、チーズづくりもやってみたい。ハイキングやトレッキングも楽しいと思う。
- ・ スキーを体験してみたかった。

4) このツアーで不自由だったことがもしあれば、それはなんでしたか？提供されれば

良いと思われるサービスや、必要ないと思われる要素があれば教えてください。

- ・ なにもかも素晴らしかった！
- ・ 自分たちで野菜を収穫してみたかった。不満はなく、すべてが気に入りました。
- ・ 参加者としてとても快適。
- ・ 鹿の解体体験ができない人向けの代替案があったらよかった。だんだんと慣れはしましたが、気分が悪くなっているあいだ気をまぎらわす術がなかった。
- ・ 寝室とトイレがやや汚なかった。
- ・ 初日の昼ごはん。自分で持ってくるというのは大変。
- ・ 雪の中でのハイキング。
- ・ ロビーの床がきしみ、少々うるさかった。注意して歩いても一歩ごとに音が出てしまった。

5) 旅をするとき、どのように情報を集めますか？

出発前と旅行中の主な情報収集の手段を具体的に教えてください。

- ・ インターネットで目的地域をリサーチ。だいたいグーグルを使用。
- ・ 普段はホームページを見て、ソーシャルメディアを活用。パンフレットを手に入れるのが難しい場合もあるので、インターネットのほうが簡単。
- ・ インターネット検索。同じ場所に行ったことがある人に聞く。
- ・ フェイスブックとロコミ。
- ・ フェイスブック、インターネット、Eメール、友人。
- ・ フェイスブック、グーグル・・・
- ・ 京都府からの連絡があり申し込んだ。

6) このツアーの印象はいかがでしたか？地元の方々になにかメッセージはありますか？

- ・ ツアーは本当に楽しかった。自然との責任ある接し方をより深く理解することができ、貴重な体験だった。地元の方々へ。この生き方がうらやましい。それを経験させていただいたことを感謝いたします。
- ・ ありがとうございます。田舎にいられてよかった。スタッフの皆様、とてもフレンドリーに、そしてご親切にすべてを説明してくださってありがとうございました。また来てみたい。またよろしくおねがいします。
- ・ このツアーをとても楽しんだ。とても寒かったですが、スタッフはすべての参加者のニーズに応えようと努力してくれた。ここでの生活がどのようなものか多少なりとも理解したい、こちらの地元の方々に非常に尊敬する。
- ・ 皆が協力し、必要なものを自然から奪ったり壊したりする代わりに自然とのバランスをとりながら満たしていくという考え方は、村に戻ってくる若い人たちにとってもとても興味深いと思う。ほとんどの人は忘れがちですが、こちらの地域の皆さんはバランスをとるという考え方を守っているのだと気づきいた。
- ・ ツアーはとても楽しかった！こちらの方々の自然との付き合い方の感じがよくわかった。このような生き方ができて皆さんは強いと思う。とても素敵です！
- ・ とても興味深く、面白かった。
- ・ とても良かった。狩猟やハンターの暮らしを見ることができてとても勉強になり、心躍った。

- この機会にとっても感謝しています。人々がどのように協力して食物や生活の糧を得ているかを見ることができ、とても面白く感激した。私たちは人間がいかに心ないやりかたで自然を破壊しているかを学んだ。こちらの協働と交流は私に希望を与えてくれた。
- 今回のモニターツアーを通じていろいろと感じる。死の残酷さが感じられないなら、命のありがたさが分からない。動物の中で鉄砲やナイフを使うのは人類だけ。どのように使うのかは人間の知恵と勇気をはかる。ここで出会ったハンターたちは知恵と勇気を我々に見せてくれた。素晴らしい経験をさせて頂きありがとうございます。

(5) 活動写真





(6) 現地開催者より所感

1) 企画・運営

初めての外国の方向けのツアーであったが、企画担当者ならびに地域団体がこれまで海外からの旅行者の受け入れ経験を持っていたこと、また、ツアー期間中を通して関わった通訳案内士の協力により、滞りなく運営することができた。特に、地域を知る通訳案内士の存在が大きい。関わっていただいた通訳案内士は本地域にて1年間生活しながら、地元猟師と共に、狩猟に関する経験をしていた。その経験があったために、本ツアーで伝えたいメッセージを的確に参加者へ伝えることができた。結果、参加者のツアーに対する理解度が高まり、満足度につながったと考えている。

2) 参加者

集客は、モニターツアーであり、日本に対して一定理解のある方でフィードバックを確実にもらえる方が望ましいと考え、京都府ならびに京都府国際センターのご協力を得て、府下に住む在住外国人を対象に行った。結果、実質的な募集期間は1ヶ月程度であったが17名の応募があり、無事に開催することができた。参加された方は、1年以上日本に滞在されている20代の方が中心であったため、通訳案内士のちからはもちろんのこと日本語および日本の文化に対する理解も高く、終了後にツアーに対しての的確なフィードバックをいただけた。

食事や活動内容において、アメリカ、メキシコ、ブラジル、中国、インドネシアと多様な方が集まり宗教や食事アレルギー（小麦）、民族による価値観の中で受け入れられるものか危惧されたが、問題になりそうなことについて、事前に対応したことにより一定の満足がもたらされることが検証された。特に狩猟や鹿の解体体験時での参加者の共感および理解度の高さには驚いた。その中でも刃物の取り扱いに関してはこれまで提供した同世代の日本人よりもはるかに高かった。これは、参加者の背景にある文化や生活が、当地域での営みに共通する要素が多くあるのではないかと感じさせられた。（都市部に住む日本人の方が当地域での暮らしと隔絶された暮らしをしているとも言える。）

⇒今後の体制整備ポイントの一つ 参加費の参加料徴収方法は銀行振込としたが、在住外国人の場合、問題なさそうである。ただ一部キャンセルされた参加者の中には、支払い方法をひとつの理由として（それ以外にも複数理由をつけられて）取り消された方もおられた。今後は、キャンセルポリシーを明確にし、海外でよく行われている参加時に参加者のクレジットカード番号を聞いておくことや、Paypal やクレジットカードにて事前に支払を完了させるなどの工夫が必要であると感じた。

一部参加者が、個人の事情等で直前にキャンセルされた。これは外国人に限らず日本人でも同様のことが起こる。海外からの旅行者が対象だと想定した場合、今回以上に起こる可能性が高い。開催リスク（最少催行人数が達しない・No Show など）をどう取り扱ってツアー商品化するかは今後の課題である。

3) DMO（デスティネーション・マネジメント・オーガニゼーション）

当初は、外部との共同の中で行う計画であったが、単発事業でもあり、なかなか役割分担や情報共有がうまくいかず実質的には、当社のみで行わざるを得ない状況となった。結果として、募集から当日まで対応が、普段なれない英語での対応ということによりややハードルを感じることで、緩慢なものになったように感じている。

今後、DMO 窓口は、参加者もしくはサービスの利用者とメディア・ラウンドオペレーターをつなぐ窓口機能であるので、当社として外国語対応を含めた人員配置もしくは、当社をラウンドオペレーターとして、その窓口となって旅行者とつながれる第三者とともに、事業化できるように再度仕組みをつくる必要があると感じている。

4) 今後に向けて

今回の受け入れ経験から以下2つの方法についてインバウンド発展の可能性があると考える。

1 つめは、少人数制の受注型もしくはオーダーメイドを高額商品として造成し DMO を通じて販売する。

2 つめは、京都市内で活躍されている通訳案内士と協働して、京都市内の観光に飽きられた外国人向けの日帰りアクティビティとして造成する。

ツアーの中身は、参加者のアンケートや実施中での意見交換から、上記の方法を用いて今回行った狩猟体験のみならず、他の季節での、農林業体験や川での漁師体験、自然体験活動なども期待されており、これらについては提供できる活動範囲であるので、これらも含めたツアーアレンジが検討できる。

また、海外の若者たちが本ツアーに関心を持ち参加すると、外国人や地域での活動に興味のある日本人（特に若者たち）が一定数興味をもつと考えられるので、彼ら彼女らが一緒になって活動する機会を提供し、日本人が自らの暮らしや文化を見つめ直す機会を提供するようなグリーン・ツーリズムの在り方の提案ができないかとも考えている。

4.6 熊本県阿蘇市

(1) 実施概要

日程：平成27年2月20・21日(金・土)

参加費：無料*子どものツアー同行希望があったため、子どものみプログラム費・宿泊費を徴収。

現地対応：田舎体験・交流施設「なみの高原やすらぎ交流館」

〒869-2801 熊本県阿蘇市波野大字小地野 663-1 TEL. 0967-23-0555

協力：阿蘇市、阿蘇市観光協会、

概要：「真冬の九州・阿蘇でのホットなグリーン・ツーリズム、体験&交流のモニターツアー2015
——阿蘇カルデラ火山の自然と伝統的な文化が産み出す地元食と暮らしを体感する旅!!」

目的：

外国人のお客様に真冬の阿蘇での日本のグリーン・ツーリズム（農山漁村での参加体験型・交流型・滞在型・創造型の観光）の体験と交流を通じて、日本の冬の田舎と農村集落での暮らしの楽しさ、おもしろさと魅力を体感し、心身ともに元気になるツアーをモニター・ツアーとして企画・実施、評価する。

ポイント・特徴：

1. 外国人の方々に日本、九州型のグリーン・ツーリズムの楽しさ魅力を体感してもらう。
2. 外国人の方々に日本・九州の阿蘇の自然と文化、冬の季節の良さを知ってもらう。
3. 海外に対して、今後の日本のグリーン・ツーリズムの魅力をアピールして行く為のきっかけづくりとする。

(2) 参加者

国籍	年齢	性別	職業
イタリア/スペイン	42	男	写真家
スイス	36	女	ビジネスコンサルタント、大学で教師
イスラエル	40	男	不動産業
オーストラリア/日本	43	女	不動産業
スイス	33	女	大学院
フランス	26	女	国際交流勤務
カナダ	28	男	外国語講師

・森の中を歩いて植物や木について学び、新鮮な空気やよい景色を見たのが本当に楽しかった。地元の方々とお会いできたのもとてもよかった、もっとたくさんお話しする時間がほしかった。

2) 今回訪ねた場所をお友達におすすめしたいですか？もしそうなら、どのように紹介しますか？

- ・親切な人々と素晴らしい食べ物があるととても美しい田舎の地域だと薦めたい。
- ・友人たちにこの地域を、都市で働く彼らの生活の「休息の場」として薦めたい。この地域はストレスや不健康な環境にいる人が、リラックスし、あたまを空っぽにするのに最適。謳い文句は「阿蘇で心をリフレッシュ、そしてエネルギーあふれる都会に帰ろう」！
- ・学生やバックパッカーなど、18才から40才ぐらいの人に。日本を知っていて日本の田舎や伝統についてももっと知りたいと思っているような人々に薦めたい。
- ・はい、必ず。特に学校や旅行者のグループ、若い人たちに良いと思う！
- ・自分の家や地元の特産品を喜んでシェアしてくれる心あたたかな人々がいる、とても友好的な地方として薦めたい。
- ・友達に薦めたい。ここは田舎のとても静かな場所で、新鮮なオーガニックフードやかわいい旧校舎での滞在が味わえると伝えたい。昔の教室に泊ったのはとても良かった。バックパッカーや学生にはよいツアーだと思う。年配者にはあまり向いていないかもしれない。

3) この地域をまわって、なにか他に体験したかったことはありますか？

- ・夏であればスイカをたくさん食べてみたい。またレンコンも。
- ・農業の畑で作業し、地元の方々をお手伝いしてみたかった。
- ・遠くからでもよいので阿蘇火山を含め、景色の写真を撮る時間、散策の時間がもっとほしかった。地元のお店に行く時間があればよかった。
- ・地元のお店にもっと行きたかった。窯元や地元特産品の職人の技を見てみたかった。
- ・買い物、地元のレストラン、自然の中の散策をもっとしたかった。
- ・乗馬が好きなので牧場をやっている地元の方に会えたら素敵と思う。植物や自然について新たな発見をしてから農作業や牛、羊、牛（この地方で有名な！）、豚などにえさやりができれば。特産品市場はとても素敵だった。とてもよい経験になり、お土産ができたのも良かった。

4) このツアーで不自由だったことがもしあれば、それはなんでしたか？提供されれば良いと思われるサービスや、必要ないと思われる要素があれば教えて下さい。

- ・いつ食事をとるか、もう少し時間があるかの説明があつたら良かった。食事はとてもおいしかったが、食事準備の待ち時間がもう少し短いとよかった
- ・1. 森に入る前に靴を変えて、と言ったほうが良い。少し汚れてしまった。
- 2. 日本では時間通りが大切だが、ヨーロッパの人々はもっとゆっくりのペースを好む。もっと自由時間があり、オプションの活動も一つだけではなく二つが良いと思う。（選べるような）
- ・初日のスケジュールがタイト。バスの外でのランチ休憩の時間があつたら良かった。オプションの活動は全部が全部なくてもよかったです。人より長く休憩がほしい人もいますので。西洋の旅行者は「ツアー

一」に慣れていず、よく個人で旅行をするので。もっと自由さが必要。

・スケジュールがややタイト。すべての活動が選択可能であればよかった。人はそれぞれみな違い、それぞれに異なるスケジュールがある。

・ペースをもっとゆっくり、休憩や自由時間をもっとたくさん、子どもたちへの配慮や行事をもっと、そして温泉をもっとあればよかった！

・いつ何をやるかを自分たちで選べるほうが良い。人はそれぞれ違い、みんなで同時に同じことをやるのが楽しい人ばかりではない。

・スケジュールがややタイト。朝食後になくてもよい時間があったので、朝8時まで眠ればよかった。ほうき作りは楽しかったけれど、いま都市の小さい部屋に住んでいるので、私にはお箸とスプーン作りの方が役に立ったと思う。

5) 旅をするとき、どのように情報を集めますか？

出発前と旅行中の主な情報収集の手段を具体的に教えてください。

・旅をする際目的地は決めるが、リラックスしたり景色を楽しんだりするためになにも決めない時間を残しておく。

・インターネットで情報を調べる。なので英語のホームページを作ることが非常に重要。目的地についたらパンフレットを見て、やってみたいことを追加していく。

・(英語の) ホームページ、チラシ

・基本的にインターネットで。

・旅行前にインターネットで、旅行中は旅先のインフォメーションで。

・参加のやりとりのEメールに詳しく書かれていて、メッセージはとても親しみやすく良かった。次回の旅行のためにパンフレットをいくつか集めた。

6) このツアーの印象はいかがでしたか？地元の方々になにかメッセージはありますか？

・都会の日常からぬけ出し、素敵な方々と出会い、いろいろな行事を楽しみ、日本食も作ることができた私たちのために料理をし、お家に受け入れてくださった皆様、ありがとうございました。みなさんにおみやげを持ってこなくてごめんなさい！

・そば作りがとても嬉しく、楽しんだ。皆さんとてもフレンドリーで、あたたかく歓迎していただき素晴らしかった。

・とても楽しんだ、が少しくたびれもした。地元ガイドや受け入れてくださった方々、どうもありがとうございました！

・とてもよい印象で、お世話になった皆さんに感謝したい。食事は素晴らしく、宿泊施設はとても素敵で、皆さん助けていただきフレンドリーだった。

(5) 活動写真



阿蘇市副市長への表敬訪問



農山村・田舎体験 & 交流施設
なみの高原やすらぎ交流館



阿蘇カルデラ火山の立体地図
波野は、北外輪山の北東部



阿蘇市波野の集落を歩きながら暮らし & 文化を体験する波野フットパス (ガイド・ウォーク)



波野の集落の杉の森も歩く!!



波野フットパス途中のビューポイント(後方は、九重連山)



波野フットパスの途中立ち寄りの家庭訪問「縁側カフェ」での交流風景



阿蘇波野の地産地消による地元食による夕食交流会



竹クラフト:ほうき作り体験



そば打ち体験“自分たちで食べる”そば“を打つ!!”



自分たうで打った“蕎麦”を食す昼食会 “旨い!!”



モニターツアーの最後に、みんなで意見交換会・評価会

(6) 現地開催者より所感

なみの高原やすらぎ交流館 館長 望月 克哉

1) 計画準備段階

都市と農村の交流施設として、熊本県阿蘇市・波野地域に当施設がオープンして12年が経過する。子どもから家族、大人を対象に、日帰りおよび宿泊による農村生活体験の提供に取り組んでいる。これまでに、JENESYSプログラム(外務省)により、マレーシアの高校生をホームステイ含めた約1週間の受入や、国際交流 NGO と連携して、外国人と日本人の若者と地元波野の小学生と一緒にキャンプ体験する企画など、外国人の受入れを経験してきた。今回はこれまでと異なり、団体旅行者ではなく、休日をすごす個人および家族で訪れる外国人を対象に農村生活体験を提供する初めての機会となり、受入にあたっては、日本エコツーリズムセンターや当日随行する通訳案内士から助言をいただきながら、プログラムとスケジュールの計画および受入準備を行った。

2) 実施しての所感

実施前には、以下のようなことを中心に考え、準備を進めてきた。

- ・外国人に適した活動プログラムはどのようなものか？
- ・提供する内容と採算のバランスは取れるのか？
- ・当館は合宿研修施設だが、外国人の個人旅行者の受入は可能なのか？

実施当日には、地元の方々と楽しそうに交流をしている様子を目の当たりにし、参加者の方々から生の感想やアドバイスを得ることができたのは大きな収穫であった。特に、今回の参加者は、日本についてよく知る人たちであったので、用意したプログラムの良い点と改善点、外国人の目線から見たプログラム内容の評価、当施設に適した外国人旅行者層などについて、具体的かつ率直な意見を聞くことができた。

たとえば、提供した個々の活動は良い評価をいただくことができた。その一方で、活動が盛りだくさんだったので「もっとのんびりと過ごす時間が欲しい」との指摘もいただいた。休暇に来たのだから、のんびりと田舎を味わいたいというニーズは、まさに参加者目線での指摘であり一番の発見であった。

実施前には、外国人受入のためにどのようにすれば良いのかが漠然としか見えていなかったが、今回の実施を通じて、「ゆっくりと波野の田舎を味わって頂く時間・空間を準備すれば良い」という一つの方針を得ることができた。

今回関わった地域の方々は、外国人の受入に戸惑いを感じつつも、交流を喜んでくれていた。

3) 提供する体験プログラムについて

【ホームビジット】参加者は受入れ夫婦の心遣いを非常に喜び、とても評価が高かった。その一方で、次のような指摘もいただいた。

①「事前に知っていれば、(自国の文化として)よその家におじゃまする際は、プレゼントを持っていくので、持っていきかけた」

事前にプログラム内容を知らせていたが、こうしたコメントをいただいたことから、よりわかりやすい表記方法を検討したい。

②「もっとゆっくり過ごしたかった」「自分のペースで時間をすごしたかった」

今後は、全体のスケジュールに余裕を持たせ、ゆっくりと時間を過ごせるようにするとともに、参加者が自分の意思で選択できるような余地を残したプログラム構成を検討したい。

【食体験（いきなり団子、だご汁、そば打ち体験）】自らの手を動かして作った地域の食を味わうことは、非常に喜んでもらえることを実感した。また、食材を選ぶことで、ベジタリアンにも対応できる点も外国人向けの体験として適していると感じた。

ツアーの最後のふりかえりでは、地域の食材を活かしたピザづくりとそば打ちを選ぶとしたら、どちらが良いか質問したところ、全員がそば打ちを選び、地域の食を提供することが魅力につながる事が確認できた。

4) 今後の課題と展望

波野地区において、「ゆっくり地域の良さを味わう時間・空間」を提供することが外国人旅行者にとって魅力になることがわかり、当施設を拠点にした外国人受入の可能性を確認できた。また、当施設が合宿研修施設である点を踏まえて、高齢者層ではなく30代程度までの比較的若い利用者や親子連れを対象にするのがよいと、参加者からアドバイスをいただいた。そして、初回の訪日旅行者ではなく、数回訪れた経験があり、日本の生活文化に興味関心を持つ層であれば、非常に良い内容であると評価していただいた。

恒常的に外国人を受け入れるには、施設で個人客を受け入れられる時期と、体験プログラムを提供する地域人材に限られることが課題としてあげられる。特に、高齢化が進む中、地域人材への過度な負荷をさけるために、外国人旅行者受入については、時間をかけながらいねいに地域内の意識醸成を図ることが欠かせない。

今後も、地域の活性化の一つとして、「波野にいながら、世界旅行をしましょう！波野にいながら、外国から訪ねて来た人が、波野を感動してくれるムラづくり！」をキャッチフレーズに、地域に外国人の受入を少しずつ進められるよう働きかけていきたいと考えている。

このほか、外国人旅行者の受入に向けて、施設ホームページやパンフレットの英語版作成も課題として挙げられる。また、今回のような外国人旅行者の受入は可能だが、当施設単体では海外からの集客および予約受付をすることは難しいため、通訳案内士や地域の旅行社等、外部との連携による体制作りの必要性を感じる。

今後も、日本エコツーリズムセンターなどの専門機関から助言や支援をいただきながら、地域にじわじわと根付かせていきたいと考えている。

Ⅲ. まとめ

1. モニターツアー参加者アンケート分析

アンケート分析

6つのモニターツアーを全体的に俯瞰する。

それぞれのツアー自体には満足度が高く、82%が「大変満足」18%が「満足」で、不満を感じた参加者は0%だった。

加えて、人にすすめたいかの質問では、100%が「すすめたい」と回答した。

ツアーで不自由を感じたことについては、今回39%が「不自由なことはない」としながらも53%が「しいて言えば直した方がいい点がある」、8%が「不自由を感じた」とあるとの回答だった。総括して言えば、英語の表記・英語情報の少なさ、事前の的確な情報の伝達、ツアープログラムの時間的な余裕のなさ、団体行動における違和感、衛生面での不備、WiFiなどの通信環境の悪さなどがあがっている。情報入手先として、圧倒的にインターネットによるものであることがわかった。紙媒体の少なさや、ネットでの情報入手のしやすさに裏付けされていると思われるが、フェイスブックやブログ、口コミなどがあげられることからSNSによる情報入手が主流となっている。またジャパンガイドやトリップアドバイザーなど、人気のある情報サイトの存在も大きいことがうかがえた。

1. 満足度について

このツアーの印象はいかがでしたか？

①大変満足している	40
②満足している	9
③よくなかった	0
④非常によくない	0

2. リピートやプラスの口コミの可能性

今回訪ねた場所をお友達におすすめしたいですか？

①すすめたい	49
②どちらでもない	0
③すすめたくない	0

3. このツアーで不自由だったことはなんでしたか？

①不自由なことはない	19
②しいて言えば改善点がある	26
③不自由なことがあった	4

- ・ゆっくりしたペース（同回答2件）
- ・スケジュールがタイト（同回答3件）

- ・リラックスできる時間
- ・ゆっくり食べたい。もっと説明を
- ・大きな木のあるところでゆっくりしたかった
- ・大人数の移動や説明を聞く時の気配りがほしい
- ・いつ何をやるかを選べる方がいい
- ・鹿の解体ができない人向けの代替案があるとよかった
- ・(神事など) 物事の意味を知りたいと思った
- ・より多くの英語の情報
- ・英語のサイン (トイレなど) あればもっと便利
- ・施設の英語ブローシャ - がほしい
- ・ツアーの内容を書いた書類やHP があるといい
- ・通訳のガイドとコミュニケーションのバランス。修学旅行のような扱いではなくて
- ・酒蔵見学は説明が多い。工程をもっと見たい
- ・民泊の共同生活の区分
- ・民宿にWiFi があるといい
- ・カヌーの前にシャワーが浴びられる事 (事前案内)
- ・森に入る前に靴を変えて、と言ってほしかった
- ・できれば水を提供してほしい
- ・お酒の紙コップなどがあるとよい
- ・ツアーの予約が大変だった
- ・交通は不便
- ・トイレに手洗いせっけんがない
- ・寝室とトイレがやや汚い
- ・移動中に説明等
- ・雨で移動が不自由
- ・ロビーの床がうるさい
- ・事前の持ち物情報などコミュニケーション
- ・お昼ご飯を持ってくるのは大変

③不自由なことの回答

- ・英語の情報 (同回答 3 件)
- ・事前の必需品の確認
- ・家の中でスイッチをつけるものが多い

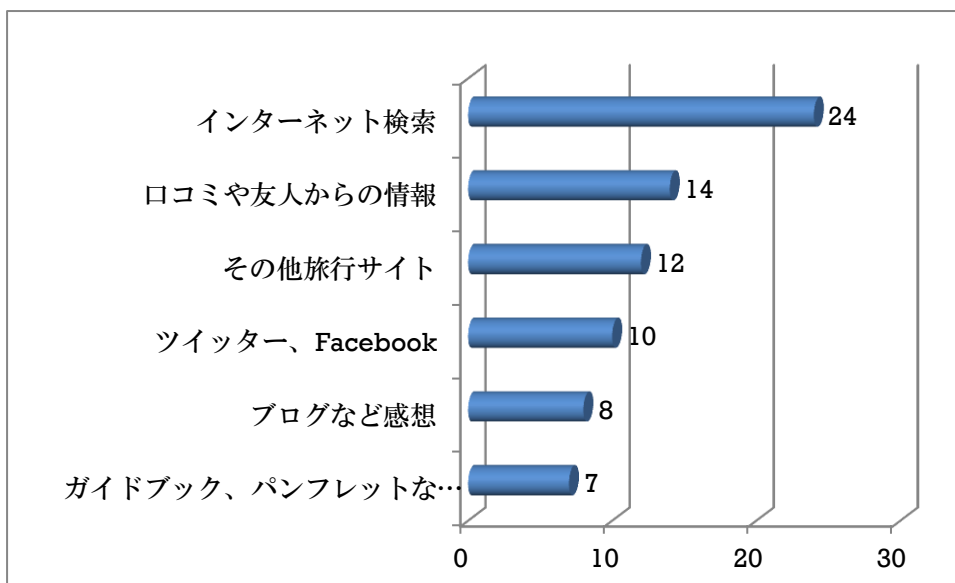
4. 旅行の情報入手先

旅をするとき、どのように情報を集めますか？

- | | |
|-----------------|------------|
| ・インターネット検索 | 24 件 (1 位) |
| ・口コミや友人からの情報 | 14 件 (2 位) |
| ・ツイッター、Facebook | 10 件 (3 位) |

- ・ブログなど感想 8件 (4位)
- ・ガイドブックなど印刷物 6件 (5位)
- ・トリップアドバイザーなど評価サイト 4件
- ・観光協会などの公式サイト 4件
- ・ジャパンガイドなど案内サイト 2件
- ・Booking.comなどの予約サイト 2件
- ・観光案内など、現地からの出版物 1件
- ・旅行会社 1件

上記のものをまとめると、以下のグラフになる。



2) インバウンドのモデルツアー企画の進め方

【地域の方々と共に地域を知り、打ち出すコンセプトをつくる】

○地域の資源を知る

グリーンツーリズムをはじめ、地域資源を最大限に活かすツーリズム展開では、まず自分たちの地域のまとまりにおいて、来訪者にとって何が魅力なのか、どんなコンテンツがあるのかを知るところからスタートする。

「うちの地域には何も無い」という話をよく聞く一方で、「うちの〇〇は日本一」という話も多く聞かれる。そのどちらにも言えるのが、もっとより深く見つめてみる、捉えてみることの大事さである。

世界中から来る人にとって、その地域の魅力的なものとは何か、その地域らしさを体現しているものは何か、地域の中だけの視点では見えてこない見るべき視点の切り替えが重要となる。

まずは、自分たちの地域で来訪者に伝えたいものを、地域の資源として皆さんで出し合い、共有することから始まる。

○世界に対して地域らしさを打ち出すコンセプトを創造する

農家民宿、農家レストラン、体験教室など、地域には多くの資源が見つかりと想像できる。それでもその1軒1軒だけでは「点」であり、大抵の場合、地域の広がりにはなっていないことが多い。大事なことは、外へ打ち出す時に、1つのキーコンテンツがあるにしても、「面」的な地域のイメージを伝えられる、いわば「コンセプト」である。

南仏プロバンスと言えばハーブのある暮らし、であるとか白川郷と言えば合掌造りなど、それぞれにイメージがわくように、これからの地域を観光の場として打ち出す時に、この面としての地域の魅力は何かを、しっかりと作り上げていくことが望まれる。それも外から持ち込んだものでは意味がなく、どこかで無理が生じる。

重要なことは「地域のDNA」とも言うべき、その地域が脈々と培ってきた文化や生活、生業、その地の自然に則ったものであること。その「地域のDNA」を皆さんで見つけ、磨くこと、それがコンセプトにつながっていく。

○地域の皆さんとで調べ、考え、つくり出す

外部から専門家を呼んで計画をつくる。外部の知見や、内部だけでは得られない視点も計画づくりには重要な要素である。その際、もう一つのはずしてはならないのが、地域の皆さんによる協働だと言える。誰かに示された答えに取り組むのではなく、当事者となる自分たちで調べ、考え、答えを導き出すということだ。その過程を地域の皆さんと一緒に経験することが何より重要で、このような協働によって報告書だけでは得られない経験値と相互の信頼感が形成される。

【ツアープラン組み立て方のポイント】

○旅行者に無理ない時間設定

せっかくだから時間内にできることはできるだけ体験してもらおう、と考えやすいが、参加する側のペースやニーズを考えると、必ずしも目いっぱいのプログラムが良いわけではない。ましてや地域から一方的に提供するのがツアープログラムでもない。

余裕を持ったスケジュールを組むことを念頭におく。そのことで、不意のアクシデントやスケジュール変更などにも十分に対応でき、予定通りにいかないことによる不満足感を軽減することにもなる。

○プログラムは詰め込み過ぎず、流れをつくる

まずスケジュールを組む際、参加者が本当に地域を楽しみ、交流し、心に残すにはどうすべきかを考える。地域にある資源をすべて活かそうとするのではなく、全体をコンセプトに沿ったテーマを持たせ、その中での組み合わせを考える方が魅力的になる。そして重要なのが体験の流れである。こま切れで一つ一つの体験を並べるのではなく、参加者の意識が地域に対して無理なく深まっていくように、「流れ」を作ることが望まれる。数日のプランであれば、どこにこのツアーの感動ピークを設定するか、そのためにどんな準備をしていくか、ツアープログラムは参加者にとってつながりのある時間であることを、念頭におきたい。

○ツアーのスタート時と終わり方に注力する

人は知らない地域で、知らない人と過ごすことに、少なからず普段は持たない緊張感を持っている。ツアーのはじめは特にその緊張をほぐし、無理なく共に過ごす参加者間、地域の方々、進行役とコミュニケーションがとれるよう配慮が必要である。あいさつをする、自己紹介をする、人との距離を縮める簡単な体験を共にするなど、俗に言うアイスブレイクをうまくとることが効果的である。また終わり方も重要で、ツアー後の満足度の度合いでさらに情報が広がるため、参加者自身のいい思い出とする、今後につなげるよう終わり方の工夫をぜひ用意したい。

【法的な規制を知って対応する】

○旅行業法の対応

参加費をとって参加者を集め、移動や宿泊を伴うツアーを行うには、旅行業法による資格を持った事業者である必要がある。地域の協議会や協会などでは、旅行主催のできる法的な資格を持っていないことが大半で、有料のツアープログラムで参加者を募って実施する際は、資格を有する事業者と組んで実施することが求められる。

○道路運送法の対応

同じく人の輸送についても、公共交通機関のないところでは、個人の車やレンタカーなどを使うケースも多々見受けられる。これも道路運送法に触れる恐れがあり、有償で自家用車を使って人を移送することはできない。少なくとも無料による送迎とするか、バス会社など旅客運送事業者に依頼することが必要である。

○通訳案内士の活用採用

通訳案内士は国家資格で、外国語によりガイドを行うにはこの資格が必要になる。地元ガイドによる資格取得が望ましいが、資格取得の難易度を考えるとかなり難しいといえる。有資格者を雇用もしくは有償で依頼して対応することが望ましいが、難しい場合は日本人ガイドと通訳者の2人1組で対応することが求められる。

○個人情報の取り扱い

連絡先や生年月日など個人情報は、個人情報保護法によって守られる。ツアー実施にあたっては連絡先や住所、年齢、パスポート番号などを聞いて名簿化することになるが、この情報が外部に漏れいしない、またツアーの目的以外に利用しないことが求められる。名簿の管理は、データの場合はパスワードの設定、管理者の取り決め、保管ルールや廃棄の徹底など各実施者でしっかりと取り扱う仕組みを決めて対応する。

併せてツアー中の写真撮影についても、事後の広報的な活用も含め、予め参加者の承諾を取っておく。

○保険への加入

当然のことながら、不慮の事故やけがなどに対応する保険の加入が必須である。単発のツアープログラムなどでは旅行保険などが適しており、通年実施する場合には施設や団体での包括的な保険もある。参

加者の傷害・死亡保険に対応する旅行傷害保険と、事故に際して物損や人的被害に対応する賠償責任保険の2種は加入すべきである。詳しくは保険会社と協議し、最適な保険の加入を行い、参加者には保障や条件について明示することが求められる。

【広報と集客】

○外国語で情報をまとめウェブへアップする

今回のモニターツアーの結果からも、外国人旅行者の情報入手源の中心はインターネットによるものが多かった。少なくとも英語のサイトがあることで、多くの外国人は地域の情報を得ることができる。多くの言葉を要する説明よりも、画像や必要最低限の情報がまず必要で、日本語ページをそのまま訳するのではなく、外国人旅行者として必要な情報を的確に発信したい。旅行するにあたっての、気象や環境の情報、必要な持ち物、特に地図のほかアクセス情報、ATMなど金融拠点の有無なども必要な情報だという。

○旅行者が重視している情報源へアプローチ

外国人旅行者がよく訪れ有用な情報源とされるサイトがある。Japan Guide、MATCHA、日本の窓、TripAdvisor、Agoda、Booking.com、Expedia、JAPANI.CAN.comなどで、ガイドブックではLonely Planet、Rough Guides、Frommer'sなどがあげられる。そうしたサイトやガイドに情報を流していくことも、広報としての効果が期待できる。

○参加者からの口コミが最大の広報

外国人旅行者による口コミがもっとも効果があるとされ、実際の参加者による事後の発信が次の集客にもつながる。特にフェイスブックやブログなどのSNSによる拡散力は大きく、参加者との継続的なつながりも生まれる。参加者がそのツアーで感動すると、その地域へのファンとなり広報マンになることを意識したい。これは逆のパターンもあり、不満の残る体験では、マイナスのコメントが拡散することになるので、当然ながら内容が問われている。

○ワンストップの情報窓口が求められている

外国人旅行者が地域の情報を集めている時に、必要とする情報が揃って入手できること、移動から宿泊、体験、交流など、一度に問い合わせによってすべて対応ができることは、大きな魅力となる。こうしたワンストップの情報窓口は、まだ日本の地域で整っておらず、ある種のコンシェルジュのように対応できる受け皿があると、非常に有用なものになると考えられる。

【実施前に】

○参加者との事前のコミュニケーション

あるプログラムを主催して参加者を募集する場合、参加者からの申し込みで終わらず、開催までの間に適宜情報のやり取りが必要となる。ツアーに必要な事務的な内容はもとより、地域情報を事前に知ってもらう、参加への期待感を高めてもらうコミュニケーションが望ましい。

○事前に確認しておくべき情報

参加者との間で次の点については必ず、事前に確認しておきたい。

- ・食べ物アレルギーの有無、宗教上の理由やベジタリアンであることによる食事制限など
- ・ハンディキャップの有無（補助を要するか、留意すべき点の把握）
- ・使用言語（母国語だけでなく、コミュニケーション可能な言語）
- ・直前の訪問地など（場合によってはのみ、伝染病危険地域や紛争地域からの渡航者など事前に把握するもの）

【実施後に】

○参加者からのフィードバック

アンケートなど参加者からのフィードバックは、その後のツアーへの貴重なアドバイスとなる。できるだけ協力をお願いし、当事者として必要な内容を適切に聞き出しておきたい。項目はなるべくしぼり、設問もなるべく変えないことで継続的な傾向も押さえることができる。

○実施側のふりかえりと事後への活かし方

一方で、受け入れ側も実施後は関係者によるふりかえりと反省会を行い、プログラムの精度を上げるブラッシュアップや、問題点などが上がった場合の解決をはかる。プログラムは一度できて完成ではなく、参加者とともにいわば育てるものと理解し、よりよい内容へと高めていくことを望みたい。

○さらなる広報とファンづくりにむけて

【広報と集客】でも取り上げたが、参加者が満足しファンになってもらえれば、事後の SNS などによる情報拡散と、口コミによる次の集客につながることを期待できる。マスへの広告を行うよりも、実際につながる人による広報によって、地道ながら着実な地域の広報を進めることをねらいたい。